

- 一 扁青 コンジヤウノ事
- 一 綠青
- 一 鬱金砂 キヲウ。又シヲウ。トイフ
- 一 石黃 畫家ニ用ユルシヲフ
- 一 藤黃 「コーセニール」虫ノ色質ヨリ製スルモノニシテ毒ナシトイヘドモ緋粉。紫粉。等ヲ以テ誤稱スルモノアルニヨリコレヲ禁ズ
- 一 洋紅 珪酸礬土鹽ヨリナル者ニシテ毒ナシトイヘドモ扁青。ベレンス。等ヲ以テ誤稱スルモノアルニヨリコレヲ禁ズ
- 一 郡青
- 一 洋青

○廣島縣甲第拾號 十五年一月十七日

明治十三年五月縣甲第八十三號ヲ以テ食物着色料之儀及布達候處尙別紙之通驗定候ニ付有害品ハ食物若クハ小兒玩弄物ノ着色料ニ供用候儀不相成此他ノ品ヲ相用度節ハ現品相添へ試験可願出違背シタル者ハ違警罪ノ刑ヲ以テ罰セラルヘシ此旨布達候事

- 無害品
- 一 狸臍脂 「コーセニール」虫ヲ以テ製ス
- 一 笹紅 紅花ノ色素
- 一 細工紅 同
- 一 カルミン (一名洋紅)「コーセニール」虫ノ色分ヨリ製ス

廿一年縣令甲第五十七号ヲ以テ違背ヨリセ一
字挿入

- 一 木蘇枋 蘇木
- 一 煎ソ蘇枋 同
- 一 ベソガヲ 酸化鉄ニ少量ノ珪酸ヲ混シ或ハ酸化鉄ニ珪酸カルキ及ヒ珪酸ヲ混ス
- 一 紫玉 炭酸苦土ニ有機物ヲ以テ色ヲ付ス
- 一 紫玉 梨屬植物菓實ノ粉
- 一 煉ズキ 同
- 一 鬱金粉 鬱金根ノ末
- 一 山梔子
- 一 黄土
- 一 代赭石 炭酸鉄珪酸カルキカリ
- 一 砥ノ粉 主トシテ珪酸カリヨリ成リ
- 一 地ノ粉 酸化鉄ト少量ノ礬土ヲ含ム
- 一 桂辛粉 鉄珪酸礬土苦土石灰硫酸ヨリ成ル
- 一 藍紙 桂皮末
- 一 藍紙 一名(ハナダ)紙諸藍色花ニ存スル「アソ」シシアソト稱スル一種ノ藍色素
- 一 青粉 植物性綠色素
- 一 玉墨 炭珪酸礬土ニ鉄苦土ヲ混ス
- 一 煤玉
- 一 上輕目 木炭

- 一 油煙 炭酸カルキ炭酸苦土
- 一 胡粉 留藥ニ用フ硫酸礬土カリ
- 一 明礬 留藥ニ用フ硫酸礬土カリ
- 一 茜根
- 一 挽茶ノ粉
- 一 紫粉 紫根ツルムヲサキキムヲサキヨリ製ス
- 一 楊梅皮 通稱(モ、ガワ)
- 一 朱 硫化汞 有害品
- 一 辰砂 同
- 一 緋粉 アニリン色素
- 一 唐紅粉 同
- 一 朱土 主トシテ酸化鉄礬土及珪酸ヨリ成リ石灰マグネシア「コロール」硫酸ヲ混ス
- 一 丹 赤酸化鉛
- 一 紫粉 アニリン色素
- 一 黃粉 一名(鬱金砂)ピクリン酸
- 一 石黃 硫化砒石
- 一 雌黃 同
- 一 雄黃 同

着色料

- 一 樟粉 一名(蒲粉)
- 一 茶粉 アニリン色素
- 一 雜複蘭尼 一名(サフロール)
- 一 藍玉 アニリン色素
- 一 紺粉
- 一 藍礬 一名(粉藍礬)内國製並ニ外國製
- 一 花紺青 銅ヲ含有ス
- 一 岩紺青 炭酸々々化銅ニ鉄ヲ混ス
- 一 郡青 珪酸礬土硫酸曹達ニ成ル
- 一 岩郡青 同
- 一 岩白郡青 同
- 一 生綠青 一名(スウエンソユルテル綠)銅ヲ含有ス
- 一 和蘭陀綠青 多量ノ銅ト甚々多量ノ砒石ヲ含有ス
- 一 岩白綠青 掘基性炭酸々々化銅ナリ
- 一 岩綠青 掘基性炭酸々々化銅ト亞砒酸々々化銅ノ混物
- 一 粒綠青 多量ノ銅ト稍多量ノ砒石ヲ含ム
- 一 煉綠青 掘基性炭酸々々化銅ト亞砒酸々々化銅ノ混物
- 一 板綠青 多量ノ銅ト稍多量ノ砒石ヲ含ム

- 一 青竹粉 一名(萌黃粉)アニリン色素
- 一 青黛 通稱(ペレンス)又(ペロ)
- 一 青漆粉 硫化砒石ニ少量ノ「ペレンス」ヲ混ス
- 一 菊葡鼠 アニリン色素
- 一 銀鼠粉 一名(藍鼠粉)又(鼠粉)
- 一 雲母 一名(キツ)、又(キラ) 埴酸、矽酸、土、珪酸、カリニシテ硫化鉄、硫化マンガン、フヨオ
ル水素酸ヲ含ムモノ多シ
- 一 亞鉛華 酸化亞鉛
- 一 唐土 炭酸鉛、炭酸カルキ
- 一 藤黃 靛家ニ用フル「シヲフ」

第十二項 禁厭

○教部省達書第二十二號 七年六月七日 府縣

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長へ相達候條向後禁厭祈禱ヲ以醫藥等差止ノ政治ノ妨害ト相成候様ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此旨相達候事

(別紙)

○教部省達書乙第三十三號 明治七年六月七日 神佛諸宗管長

禁厭祈禱等ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦惱候處間ニハ之レカ爲メ醫療ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑致道職タルモノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候様ノ所業有之候テハ朝旨ニ乖戻シ政治ノ障碍ト相成甚以不都合ノ次第ニ候條向後心得違ノ者無之様屹度取締可致此旨相達候事

○内務省達乙第四十二號 十五年七月十日 府縣(神佛諸宗)

別紙戊第三號之通神道諸宗管長へ相達候條今後違背之輩有之候半々直ニ差止置委詳當省へ具狀可致此旨相達候事

(別紙)

○内務省達戊第三號 明治十五年七月十日 神道副總裁神佛各管長

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月教部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ

證明セシノ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得
此段相違候事

○廣島縣甲第四拾九號 十二年三月廿二日
口寄巫杯ト唱ヘ吉凶禍福ヲ説キ候等ノ儀禁止セシノ候旨明治五年十一月本縣第七拾四
號及ヒ同九年二月本縣第貳拾八號ヲ以テ布達候趣モ有之右様ノ所業致ス者ハ無之等ニ
候處尙御聞神託ト稱シ隱ニ病者ニ對シ醫藥ヲ禁シテ猥リニ灸治ヲ施シ或ハ別ニ藥方ヲ
授ケ又ハ醫師ノ方位ヲ指示スルノ類妄説ヲ以テ人民ヲ惑感セシムル者有之哉ニ相聞甚
不都合ノ事ニ候右ハ豫テ布達ノ旨趣ニ悖戻スルノミナラス衛生上妨害不悞儀ニ付嚴密
取糾シ相當ノ處分ニ可及候條心得違ノ者無之様可致此旨布達候事

第十三項 湯屋并ニ石風呂

○廣島縣令甲第五十六號 廿五年六月廿九日
明治十九年三月甲第五十一號布達湯屋營業取締規則左之通改正ス

湯屋取締規則

第一條 湯屋トハ洗湯、藥湯、潮湯、蒸湯、鑛泉湯等ヲ以テ公衆ニ入浴セシノ營業ト爲ス
モノヲ云フ

第二條 湯屋營業ヲ爲サントスルモノハ其地名地番及ヒ湯ノ種類ヲ記シ左項ノ書類ヲ
添ヘ所轄警察官署ヘ出願許可ヲ受クヘシ

- 一 構造ノ圖面並其仕様書
- 二 藥湯ハ其免許鑑札ノ寫
- 三 鑛泉及湯花ヲ用ユルモノハ湯元ノ證明書

第三條 湯ノ種類ヲ變更セントスル片ハ所轄警察官署ヘ届出認可ヲ受クヘシ
但藥湯、鑛泉湯ニ係ル片ハ前條第二三項ノ書類ヲ添フヘシ

第四條 構造ヲ變改セントスル片ハ第二條第一項ノ圖面及仕様書ヲ添ヘ所轄警察官署
ヘ届出認可ヲ受クヘシ

第五條 新設又ハ改造落成シタル片ハ所轄警察官署ヘ届出檢査ヲ受クヘシ檢査済ニア
ラサレハ使用スルヲ許サス

第六條 廢業改氏名賣買讓與ヲ爲シタル片ハ五日以内代替ノ片ハ十日以内ニ所轄警察
官署ヘ届出ツヘシ

但賣買讓與ハ双方連署シ代替ハ相續人ヨリ届出ツヘシ

第七條 營業者其營業ノ場所ニ常住セサルモハ代理者ヲ置キ住所氏名ヲ所轄警察官署ヘ届出ツヘシ

第八條 湯屋ノ構造ハ左ノ各項ニ遵依スヘシ

- 一 浴槽ハ男女ヲ區別シ各半坪以上ニシテ深サ三尺以上タル事
- 二 洗場ハ男女ヲ區別シ各二坪半以上タル事
- 三 洗場ノ天井又ハ適應ノ個所ニ一ヶ所以上ノ湯氣抜ヲ設ケル事
- 四 洗場ノ地盤ハ石、煉瓦ノ類又ハ厚板ヲ以テ敷キ詰メ水液滲透セサル様ニ爲ス事
- 五 洗場ニハ掛湯及洗水ヲ備フヘシ
- 六 洗桶ハ男女各拾個以上ヲ備ヘ置ク事
- 七 脱衣場ハ男女ヲ區別シ各三坪以上トシ且十五人以上ノ用ニ供スヘキ個々ノ締リアル戸柵ヲ備フル事
- 八 浴槽、洗場、脱衣場ハ男女双方ヨリ見透サ、ル様板仕切等ヲ以テ區域ヲ爲ス事
- 九 出入口ハ男女ヲ區別シ且出入口ニ接シテ便所ヲ設ケサル事
- 十 火焚場ハ一坪以上ノ空地ヲ有シ周圍及天井ハ煉瓦積ミ又ハ土塗ト爲シ場内ニハ灰溜及火溜溜ヲ設ケ其覆蓋ハ不燃質物ヲ用ユル事
- 十一 烟筒ハ煉瓦、陶器其他不燃質物ヲ用ヒ屋上一丈二尺以上突出シ筒口ニハ細密ノ金網ヲ張ル事
- 十二 煉瓦積以外ノ烟筒ニ付テハ其燃質物ニ接スル部分ハ五寸以上ノ間隙ヲ有テ漆

喰其他不燃質物ヲ以テ填塞スル事

十三 汚水流出ノ線路ハ相當ノ勾配ヲ付シ覆蓋ヲ設ケル事

第九條 營業者ハ雛形ノ目標ヲ戶外ニ掲出シ夜間ハ点燈スヘシ

第十條 浴槽、洗場、脱衣場其他浴客ノ用ニ充ツル二階等ハ外部ヨリ見透サ、ル様装置ヲ爲シ出入口ハ常ニ開放シ置クヘカラス

第十一條 營業時限ハ日出ヨリ午后十二時迄トス但烈風ノ節ハ時限ニ拘ハラヌ何時ニテモ焚火ヲ停ムヘシ

第十二條 浴場ニ於テハ喧嘩又ハ不潔ノ行爲アラシムヘカラス

第十三條 男女混浴セシムヘカラス但十歳未満ハ此限リニアラス

第十四條 危殆ト認ムル病者又ハ老幼ニシテ看護人ナキモノハ入浴ヲ謝絶スヘシ

洗湯ニ於テハ浴客ノ嫌惡スヘキ病者ノ入浴ヲ謝絶スヘシ

第十五條 浴湯ハ毎日交換スヘシ但藥湯又ハ鑛泉湯ノ類ニシテ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

第十六條 掛湯及洗水ハ清潔タルヘシ

第十七條 浴槽、洗場ハ毎日一回以上烟筒ハ毎月三回以上掃除スヘシ

但藥湯、鑛泉湯類ノ浴槽ハ交換スル毎ニ掃除スヘシ

第十八條 火焚場ニハ常用ノ外餘分ノ燃質物ヲ置クヘカラス

第十九條 湯錢ノ額又ハ藥湯、鑛泉湯ノ効能及ヒ浴方ハ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第二十條 浴客ノ衣類物品ハ看守スヘシ

第二十一條 浴客ノ遺留品アル片ハ五日間見易キ所ニ揭示シ持主遂ニ不分明ナル片ハ所轄警察官署又ハ巡查駐在所へ現品ヲ添へ届出ツヘシ

但不正品ト認ムルモノハ直ニ届出ツヘシ

第二十二條 警察官吏ハ臨時検査スルコトアルヘシ營業者ハ故ナクシテ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 構造上危険アリト認ムル片ハ改造又ハ修繕ヲ命シ又ハ一時使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十四條 同業者ニ於テ組合ヲ設クル片ハ所轄警察官署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第二十五條 第二條第三條第四條第五條第六條第七條第十三條第十五條第二十二條第二十三條ニ違背シタル者又ハ第九條第十條第十七條第十九條ニ違背シ督促ヲ受クルモ猶之ニ從ハサル者又ハ第十一條第十八條ニ違背シ制止ヲ肯セサル者又ハ第二十三條規定ノ命令ニ從ハサル者ハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留又ハ拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

附則

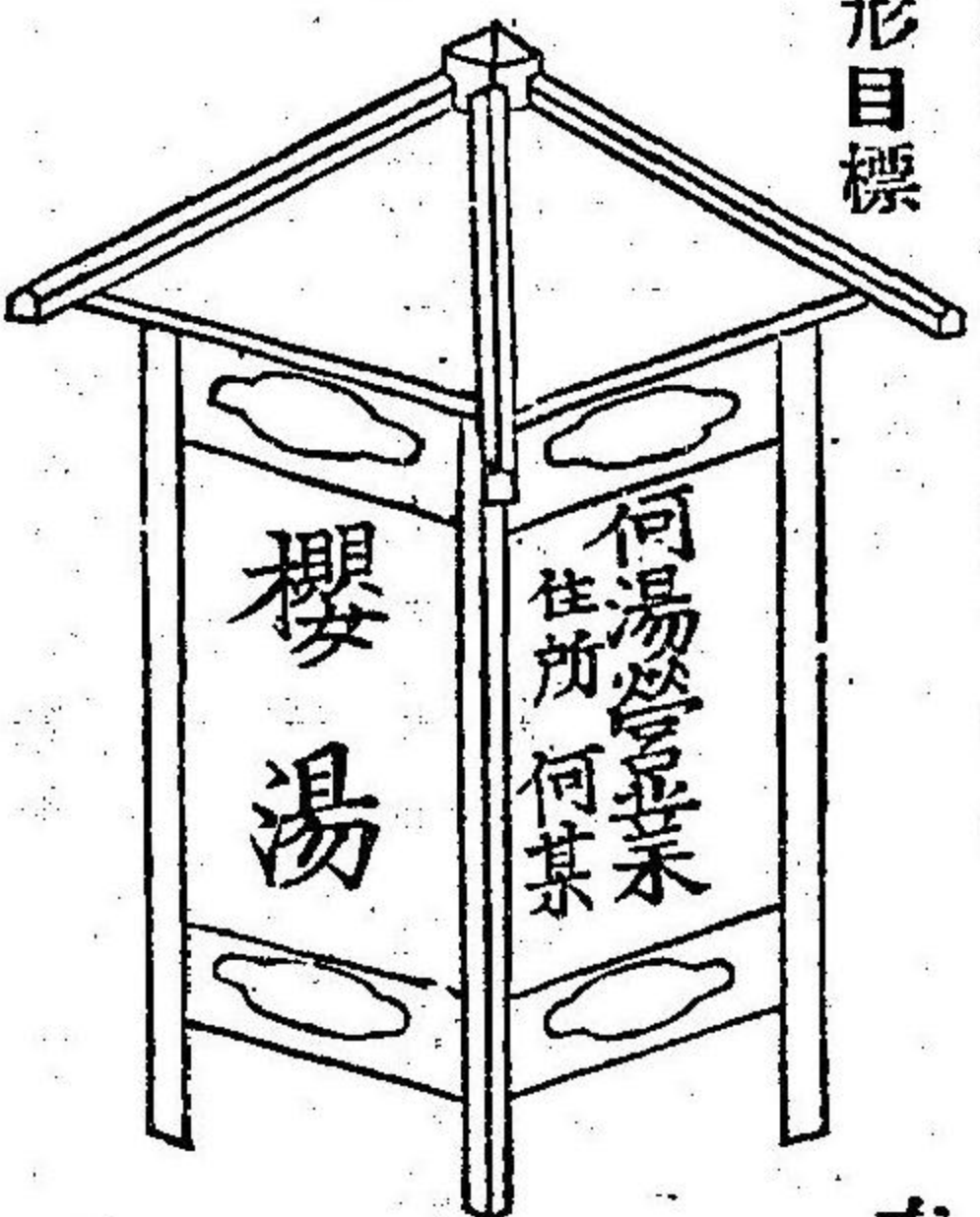
第二十六條 從來許可ヲ得タル湯屋ニシテ本則第八條ノ規定ニ適合セサルモノハ明治二十五年十二月三十一日迄ニ改造スヘシ若シ期限ニ至リテ猶改造セサルモノハ許可ノ効ヲ失フモノトス

但構造ノ模様ニ依リ浴槽、洗場、脱衣場規定ノ坪數ニ滿タンシ難キカ又ハ男女出入口ヲ區別シ難キ事情アリト認ルモノハ全体ヲ改造スル迄猶豫スルコトアルヘシ

第二十七條 市街地以外ノ町村ニハ當分本則第八條第九條ハ施行セズ但浴槽及ヒ洗場、脱衣場ハ適宜男女ノ區域ヲ設テ煙筒ハ不燃質物ヲ用ベシ

雛形目標

右側記載左側ニ同シ



雛形ハ一例ヲ示シタルモノナルニ付製方ハ適宜タルヘシ

○廣島縣丙第四百十五號 十五年八月十四日 郡區長衛生委員

縣下ニ於テ俗ニ石風呂ト稱スルモノハ溫度等過度ニシテ健康ヲ害スルノ虞有之ニ付右營業者ハ左ニ記載ノ程度ヲ不超様可爲致此旨相達候事

但浴室及ヒ休息所へ程度ヲ掲載致サスヘシ

一 温度 暑中ハ華氏ノ百度寒中ハ百十五度ヲ過クベカラズ

一 入浴度數 強弱ニ依リ一日二度乃至三度ヲ限リトス

一 入浴時間 十分時ヲ過グベカラズ

第十四項 斃獸并ニ獸皮筋骨類化製

○廣島縣令甲第四拾八號 廿三年二月廿八日

明治十七年二月甲第十二號布達斃牛馬取扱規則ヲ廢止シ斃獸取締規則左ノ通相定ム

斃獸取締規則

廿三年三月縣令甲第五十三号ヲ以テ及賣肉ノ三字ヲ追加

- 第一條 本則ニ於テ斃獸ト稱スルハ斃死シタル牛馬羊豚ヲ云フ
- 第二條 斃獸ハ取扱場外ニ於テ解体ス可ラス
- 第三條 斃獸ノ取扱ヲ爲スモノハ屠獸及賣肉營業ヲ兼ル事ヲ得ス
- 第四條 取扱場ヲ設ケ營業ヲ爲サントスルモノハ左項ノ書類ヲ添ヘ常廳ヘ願出免許ヲ受ク可シ
 - 一 構造及地形ノ圖面(地名地番其他建物ノ坪數等ヲ詳記スルヲ要ス)
 - 二 四隣三十間以内地主ノ承諾書
 - 三 借地ヲ以テ取扱場ニ充ントスルルハ其地主ノ承諾書
- 第五條 取扱場ノ位置及構造ハ左項ノ制限ニ遵フ可シ但山林原野等ニアリテ人家隔絶ノ地ニ設置スルモノハ第二項第三項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得ルト雖モ板又ハ壁等ヲ以テ見透サ、ル様圍ヲ設クベシ
 - 一 人家、官公有建造物、社寺、飲用水ニ供スル河井泉、國道、縣道ヲ隔ル六十間以上ノ場所タル事
 - 二 取扱場ハ屋宇ヲ設ケ其解体室ノ地盤ハ一寸以上ノ勾配ヲ付シ汚物溜ニ通スル一條ノ溝ヲ穿テ石、煉化石、又ハ漆喰等ヲ以テ築ク事

三 汚物溜ハ陶器又ハ漆喰等ヲ以テ設ケ臭氣ノ漏洩セサル様覆蓋チナス事

第六條 免許后六ヶ月以内ニ工事落成セサルルハ免許ノ効ヲ失フ

第七條 改造セントスルルハ第四條第一項構造ノ圖面ヲ添ヘ常廳ヘ届出認可ヲ受ク可シ

第八條 新設又ハ改造落成シタルルハ使用以前所轄警察署又ハ分署ヘ届出検査ヲ受ク可シ

第九條 取扱場ニハ雛形ノ看板ヲ掲ク可シ

第十條 他人所有ノ取扱場ヲ借受ケ營業ヲ爲ントスルモノハ其場所ヲ記載シ持主ノ連署ヲ得テ常廳ヘ届出可シ

其取扱場ヲ變更シタルルハ五日以内ニ前項ノ手續ヲ爲ス可シ

第十一條 轉住代替改氏名廢場廢業又ハ取扱場ヲ賣買讓與シタルルハ五日以内ニ常廳ヘ届出スヘシ

第十二條 營業者ハ解体ノ日時ヲ定メ豫メ所轄警察署分署巡查派出所駐在所ノ内ヘ届出ヘシ

第十三條 解体ノ節ハ警察官吏監臨スル事アル可シ

第十四條 營業者ハ業式ニ倣ヒ斃獸買入明細帳ヲ製シ記入ス可シ

帖簿ハ二ヶ年間保存ス可シ

第十五條 解体シタル肉ハ細斷シテ小片ト爲シ石炭油又ハ硫化石灰水(石灰七分硫酸三分水并分ヲ混和シ熱ヲ加ヘタル)ヲ灌注スル等食料ニ供セシメサルノ手續ヲ爲ス可シ但第十八條ノ場合ハ此限

リニアラス

第十六條 腸皮骨肉等ハ速ニ取片付テ其時々場内ヲ掃除ス可シ

第十七條 取扱場ハ濫リニ他人ヲ入ラシム可カラス

第十八條 取扱場ニ於テ食用獸ヲ屠殺又ハ解体スルヲ得スト雖モ變死傷ノ獸類ニシテ自家ノ食用ニ供セントスルモノハ特ニ認可スル事アル可シ

前項ノ場合ニ於テハ變死傷ノ事由ヲ詳記シ獸醫ノ檢案書ヲ添ヘ所轄警察署分署巡查派出所駐在所ノ内ヘ届出認可ヲ受ク可シ

第十九條 斃獸ヲ埋没セントスルモノハ左項ノ制限ニ遵ヒ埋没ス可キ地名ヲ詳記シ所轄警察署分署巡查派出所駐在所ノ内ヘ届出認可ヲ受ク可シ

一 第五條第一項ニ規定スル場所タル事

二 地下六尺以上ヲ掘リ埋没スル事

第二十條 斃獸ハ河海原野等ニ投棄ス可カラス

第二十一條 病獸ヲ撲殺解体セントスル時ハ第二條第三條第十二條第十四條第十五條第十六條第十七條ニ準據ス可シ

第二十二條 獸類傳染病豫防規則ニ依リ處分ス可キモノハ本則ニ據ルノ限ニアラス

第二十三條 當廳ヘ差出ス願届ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經由スヘシ

第二十四條 第二條第四條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十四條第十五條第十六條第十八條第十九條第二十條第二十一條ニ違フモノハ違警罪ノ刑ニ處セラル可シ

附則

本則第五條ニ牴觸スル既設ノ取扱場ハ來ル十二月三十一日迄ニ改造又ハ移轉ス可ク其改造ニ付テハ第七條移轉ニ付テハ第四條ノ手續ヲ爲ス可シ違フモノハ免許ノ効ヲ失フ

第一号雛形
看板 三尺

12

斃獸取扱場

住所持主
何 某

第二號様式
斃獸買入明細帖

年	月	日	獸	名	頭	數	賣渡人住所氏名

○廣島縣令甲第四拾六號 廿三年二月廿八日
獸皮筋骨類化製所取締規則左ノ通相定ム

獸皮筋骨類化製所取締規則

- 第一條 營業ノ爲メ獸類ノ筋骨皮爪臟腑等ヲ以テ蠟、肥料其他諸種ノ原料品等ニ化製セントスルモノハ本則ニ從フヘシ
- 第二條 營業者ハ化製所外ニ於テ化製スヘカラス
- 第三條 化製所ヲ設置シ營業セントスルモノハ化製ノ品類ヲ記シ左ノ書類ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出免許ヲ受クヘシ
 - 一 構造及地形ノ圖面(地名地番其他建物ノ坪數等ヲ詳記スルヲ要ス)
 - 二 四隣三十間以内ノ地主承諾書
 - 三 借地ニ係ルルハ地主ノ承諾書
- 第四條 化製所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ
 - 一 人家社寺諸建造物(假小屋物置倉庫番屋等ノ類ハ除ク)及飲用ニ供スル河井泉井ニ國道縣道ヲ隔ルル六
十間以上タル事

- 二 化製室及貯藏所ヲ設ケ其地盤ハ石敷、煉化石敷、漆喰塗、又ハ板張ト爲ス事
- 三 陶器又ハ漆喰塗等不滲透質ノ物品ヲ以テ造リタル汚物溜ヲ設ケ覆蓋ヲ爲ス事
- 四 周圍ニ高サ六尺以上ノ塙ヲ設ケル事
- 第五條 改造セントスルルキハ第三條第一項構造法ノ書類ヲ添ヘ所轄警察署又ハ分署ヘ願出認可ヲ受クヘシ
- 第六條 新設又ハ改造落成シタルルキハ使用以前所轄警察署又ハ分署ヘ願出検査ヲ受クヘシ
- 第七條 化製所ニハ雛形ノ看板ヲ掲クヘシ
- 第八條 市街及國道縣道ニ於テ筋骨皮爪臟腑等ヲ運搬スルルキハ露出セサル様注意スヘシ但化製ヲ經テ不潔ナラサルモノハ此限ニアラス
- 第九條 化製所ハ常ニ掃除ヲ怠ルヘカラス
- 第十條 轉任代替改氏名廢業シ又ハ化製所ヲ賣買讓與シタルルキハ五日以内ニ所轄警察署又ハ分署ヘ願出ヘシ但賣買讓與ハ双方連署スルヲ要ス
- 第十一條 化製所ニ於テ斃獸解体營業ヲ兼テントスルモノハ斃獸取締規則ニ據リ免許ヲ受ケ總テ同則ノ規定ニ從フヘシ
- 第十二條 本則第六條ノ届ハ口頭ヲ以テ爲スモ妨ケナシ
- 第十三條 本則第二條第三條第五條第六條第九條第十條ニ違背シタルモノハ違警罪ノ刑ニ處セラルヘシ

附則

從前設置ニ係ル化製所ハ此際所轄警察署又ハ分署へ届出免許ヲ受クヘシ但本則ノ制限ニ適セサルモノハ來ル十二月三十一日迄改造又ハ移轉ヲ猶豫ス其改造及移轉ニ付テハ本則ノ規定ニ從フヘシ
前項ニ違フモノハ營業ヲ爲スヲ許サス

看板雜形

三尺

住所

何々化製所

持主

某

第十五項 學校

○文部省達第三號 十七年二月十五日 府縣

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不尠候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候様取計フヘシ此旨相達候事

○廣島縣令甲第三拾号 二十五年三月十四日

明治二十三年十月敕令第二百拾五号小學校令第二十三條ニ基キ兒童出席停止規則左ノ通相定ム

兒童出席停止規則

第一條 兒童ノ左ノ事項ニ該當スルモノアルトキハ小學校ニ於テ出席停止ヲ命スヘシ

- 一 兒童ノ虎列拉腸室扶私實扶埕里亞赤痢發疹室扶私痘瘡麻疹水痘疥癬流行性眼病等ニ罹リタルモノ又ハ水痘頭瘡胎毒其他ノ皮膚病ニ罹リテ傳染ノ虞若シクハ脈惡スヘキ惡臭アルモノ又ハ一家中ニ虎列拉腸室扶私實扶埕里亞赤痢發疹室扶私痘瘡等ノ傳染病患者アルトキ
- 二 不良ノ行爲アリテ容易ニ改悛ノ狀ナキトキ
- 三 休質薄弱若シクハ疾病等ニテ課業ニ堪ヘ難キトキ

第二條 市町村立小學校及之ニ代用スル私立小學校ニ於テ第一條第二ノ兒童ニ出席停止ヲ命セントストキハ豫メ市町村長ニ協議シ監督官廳ノ許可ヲ受ケ第三ノ兒童ニ出席停止ヲ命セントストキハ豫メ市町村長ニ協議スヘシ

第三條 出席停止ヲ解除スルノ手續ハ凡テ出席停止ヲ命シタルノ例ニ準ス
但第一條第一ノ兒童ノ出席停止ヲ解除セントスルトキハ豫メ市町村衛生主任者ノ
意見ヲ聞クヘシ

第十六項 監獄

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○勅令第九十三號 二十二年七月十二日

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタ
ル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ
禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及癡啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監^{北海道ニ在ル}及假留監^{北海道ニ在ル}ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海
道廳長官府縣知事^{東京府}之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事^{東京府}ハ毎年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣古書ヲ査閲シテ之ヲ領シ其領

收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレ

タル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セシト請フトキハ其齡滿三歲ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキ

ハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシ

ムヘシ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別

異ス

一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

四 滿十六歲以上二十歲未滿再犯ノ者

五 滿二十歲以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 滿八歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者

二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者

三 滿二十歲以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ牆壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分チ時宜

ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ毎囚ノ體力ニ應ジテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定

メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受タヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日

孝明天皇祭

元始祭

春季皇靈祭

紀元節

神武天皇祭

秋季皇靈祭
天長節
十二月三十一日

神嘗祭
新嘗祭

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以內農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ

充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ白衣ヲ着スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セシト請フ者アルトキハ之ヲ許ス亦貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食量

一 下白米十分ノ四 七合乃至八合 最モ強キ作業ニ服スル者

一 麥十分ノ六 五合乃至六合 作業ニ服スル者

一 同 四合 作業ニ服セサル者

一 同 三合 十歳未満ノ幼者

一 菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍等ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ毎日四時以內讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス
囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之
ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承
諾ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ
共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊
ニ回答セシト請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱ス
ヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發附付與
スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノト
ス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以
テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サ
ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ
除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受
クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ重輕ヲ料リ其監房若ク
ハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ
之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ
者ニ下付ス但死亡後二十四時以内ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ
假葬シ其姓名ヲ記シタル木榜ヲ立ツヘシ

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬
シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ
飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閱ヲ受クヘシ其
密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行法律命令書並書籍用紙印紙郵便切手貨幣及內務大
臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル
制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉強シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スル
トキハ之ヲ賞譽スヘシ
賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫着セシム
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應

シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役

ヲ課ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三 閤室 閤室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍

ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内閤室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從

テ處罰ス

一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

備慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ閤室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體

ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ觀察セシメ醫師ニ

於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行

脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一月以上一年

以下兩脚ニ鉄ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鉄ニ貫キ腰間ニ繚帶セシメ繚帶ノ

所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス丸ハ索尾ニ屬

シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施鉄中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ鉄ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時

之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施鉄期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ

褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ

免スルコトヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ

拘置スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ

第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

○內務省令第八號 二十二年七月十六日

監獄則施行細則左ノ通相定ム

監獄則施行細則

第一章 規程

- 第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ
- 第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房内ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名籍ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ房内揭示ノ事項ヲ説示スヘシ
- 第三條 各監房内ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ
 - 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ教令ヲ謹守スヘシ
 - 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 刑事被告人ヲ拘禁スル監房ニハ此項ヲ除ク
 - 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受テ及席壁厠等ヲ掃除スヘシ
 - 一 窓壁若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ニ唾ハキ及時水ヲ濫用スヘカラス
 - 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫ニ交談スヘカラス
 - 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話發聲又ハ濫リニ起步スヘカラス但晝間ハ雖放歌喧噪又ハ高聲誦讀シ及隣房ニ通聲交談スヘカラス
 - 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戯ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ涉ルカ如キ所爲アルヘカラス
 - 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス

- 一 許可ヲ得スルテ物件ヲ受授貸借スヘカラス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通聲スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ
- 第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ證印スヘシ
- 領置ノ貨物ハ本入釋放又ハ假出獄免幽閉假出場ノ時之ヲ下付スヘシ
- 第五條 領置物品中存保ニ堪ヘ難キモノハ本人ニ告知ノ上之ヲ賣却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得
- 第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スル者モ亦第四條第五條ノ例ニ依ル
- 第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

- 第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ検査ヲ爲スヘシ
- 第九條 通身ノ検査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場教誨堂運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ在ラス
- 第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ
- 第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ
- 第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ
- 第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押

送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ

第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名籍簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ

第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名籍簿ニ照シテ其氏名等ヲ問糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ刑事被告人ニシテ放免保釋及責付スヘキ者アルトキモ亦同シ

第十七條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ證印セシムヘシ

第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サヲシテ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス

第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作り其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金錢ハ破綻ノ憂ナキ樣嚴緘シ之ニ封印ヲ捺印スヘシ

第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十

四時以內ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其證票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ

已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シコトヲ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判確定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ證票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ヲ乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル證票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ嚴ニスヘシ

第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ嚴ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ

第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣着用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但監人ノ在ラサルトキハ此限ニアラス

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラス

第三十四條 密室ハ拘留監ニ設ケヘシ

開室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメ毫モ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス

密室及開室ハ一室一人ヲ限トス

第三十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設ケヘシ

第三十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ墻壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其型式ヲ同クスヘシ

第三十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條 看守所ニハ開室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 燈火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルヘノ虞ナカラシムヘシ

第二章 役法及時限

第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ強弱ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米瓦工煉化石工石工碎石鍛冶工油絞工耕耘木挽工抄紙工木工桶工鑿工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ

女囚ノ作業ハ紡績裁縫機織洗濯ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石開墾採礦土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限リ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鎖ヲ用テ二囚毎ニ聯絆シ晴雨ヲ問ハス笠ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラス

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ難キトキト雖他ノ作業ニ就ケ休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取締點檢ヲナスヘシ還房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寝ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條 起床還房就役罷役就寝其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム

第三章 工錢

第五十一條 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條 免役日ニ於テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ

第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類並ニ刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺葱色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ

長衣トス

第五十五條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺葱色トシ各自ニ貸與シ二人以上合著セシムルコトヲ得ス

第五十六條 刑事被告人ノ著用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與ス

第五十七條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ

第五十八條 在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ

通常服

一 單衣

一 袷

一 綿入

一 襦袢

就役服

一 單衣

一 袷

一 綿入

一 襦袢

一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得
雜具

- 一 蒲團
- 一 蚊簾
- 一 莞蓆
- 一 木枕
- 一 帶長三
- 一 帶長三
- 一 褲長三
- 一 手巾
- 一 蓑
- 一 笠
- 一 履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁灌補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他草鞋用紙ハ之ヲ付與ス

極寒ノ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得

第五十九條 病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第六十條 病者ノ食量ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ増減スヘシ

第六十一條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯婆等ヲ用ユルコトヲ要スルト

キハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシム典獄之ヲ考檢シテ許可スルコトアルヘシ

第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其種類分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得ス但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ

- 一 木椀
- 一 箸
- 一 飯器
- 第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ
 - 一 貯水器並ニ飲器 木製
 - 一 唾壺 木製又ハ竹製
 - 一 便器 木製大小ニ種但監房ニ屬シテ用ルモノハ此器ヲ用ヒス
 - 一 小箒 草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ
 - 一 洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス
監獄内ノ厠間並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ澀ヒ又ハ大

氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防クヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スハカラス
第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短羅セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ澀濯ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ隔離室ニ移シ其消毒ヲ嚴ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及購求ヲ停止スルコトヲ得
第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一

週日以上他ノ者ト隔離シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ
刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診案ニ據リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ名籍簿ニ記載スヘシ若シ變死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由及其年月日場所死狀等ヲ名籍簿ニ詳記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ
監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後ト雖下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス
第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物モ亦同シ

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ遞送スルコトヲ得但遞送費ハ親屬ノ自辨トス

第八十二條 假葬シタル死亡者刑死者ノ遺骸ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シタルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用ヒシノ典獄之ヲ封緘遞送スルモノト
ス但郵便稅ハ自辨トス

第八十四條 官司ノ訊問ニ由テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルト
キハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀斜讀又ハ橫讀シ不正不良ノ文
意アルヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職業及緣由ヲ
詳悉シタル上之ヲ許スモノトス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ假留監ニ押送
以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ姿貌其他形狀
等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取
締立會フヘシ

第八十七條 辯護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限リ訊
問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

病囚トノ接見ハ危篤ノ際ニ限リ病室ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十八條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス
第七章 差入品

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及煙草ヲ除キ監獄内ニ於テ炊烹ヲ要
セサルモノニシテ一日三回一人一食ノ量ニ限ル

第九十條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ檢査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通
謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ヲシテ立會ハレ
ムヘシ

第九十一條 檢査ノ爲メ解纏シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘ
シ

第九十二條 免幽閉ヲ受ケタル者親族故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキ
ハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨
第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フ
ヘシ

第九十四條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後ノ教誨ハ被教
誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノトス

第九章 賞譽
第九十五條 監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺葱色ノ布ヲ用
ヒ賞譽セシ毎ニ之ヲ與ヘ上衣ノ左袖肩臂間ノ表面ニ繡著スルモノトス

第九十六條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス
一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二 書信ハ一箇月ニ二通二次之ヲ爲スコトヲ許ス
 三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタシムルコトアルヘシ
 四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ノ勞働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ増加ス
 五 賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ變換ヲ請ハシムルコトヲ得
 六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外菜ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ得タル者ニハ三回増給ス但其價ハ一回一錢ニ過タルコトヲ得ス
 第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞表ヲ與フルノ限ニ在ラス
 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
 二 人命ヲ救援シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ
 第九十八條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲ノルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ
 第十章 懲罰
 第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ
 第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ

在監人勅作時限表

但改悔ノ情著シキトキハ合居セシムルコトヲ得
 第一百一條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官東ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ得
 敵犯俱發シタルトキハ一ノ重キニ從ヒ處罰スヘシ
 第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限リ其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ懲罰期限ニ算入スヘカラス
 第一百三條 兩脚ニ欵ヲ施ス者改悔ノ狀顯ハレ其施欵期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ欵ハ免除スルコトヲ得
 第一百四條 欵ヲ施シタル者改悔ノ狀最モ顯著ニシテ其施欵期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其欵ヲ免除スルコトヲ得
 第一百五條 假ニ欵ヲ免除シタル者其罰期內更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施欵期限ニ算入スヘカラス
 第一百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其勅作ヲ觀察シ教誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ
 附則
 此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長之ニ當ルヘシ

月名	限起	床	監房掃除	並喫飯	就役	午飯	罷役	還房	就寢	服役時間
一月	前六時	六時	一時間	前七時	七時	十二時	後三時	五時	八時	七時三十分
二月	六時	六時	一時間	七時	十二時	四時	五時	八時	八時	八時三十分
三月	五時三十分	六時	一時間	六時三十分	十二時	四時	六時	八時	八時	八時三十分
四月	五時	六時	一時間	六時	十二時	四時	六時	八時	九時	九時三十分
五月	五時	六時	一時間	六時	十二時	五時	七時	九時	九時	九時三十分
六月	四時	五時	一時間	五時	十二時	五時	七時	九時	九時	九時三十分
七月	四時	五時	一時間	五時	十二時	五時	七時	九時	九時	九時三十分
八月	四時三十分	五時	一時間	五時三十分	十二時	五時	七時	九時	九時	九時三十分
九月	五時	六時	一時間	六時	十二時	四時	六時	八時	九時	九時三十分
十月	五時三十分	六時	一時間	六時三十分	十二時	四時	六時	八時	九時	九時三十分
十一月	六時	七時	一時間	七時	十二時	四時	六時	八時	八時	八時三十分
十二月	六時三十分	七時	一時間	七時三十分	十二時	四時	六時	八時	八時	八時三十分

一就役罷役及還房ノ時間ヲ除ク外ハ囚人ニシテ服役セサル者懲治人及刑

備考

事被告人ニモ亦本表ヲ適用ス
 一次事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人並ニ病者ノ起床及就寢時間ハ本表ニ依ルノ限リニ在ラス

○内務省訓令第二十九號 二十二年六月二十六日
 府縣集治監假留監
 看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改ム

第三章 醫師ノ職務 摘録

- 第三十八條 典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス
- 第三十九條 常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報告スヘシ
- 第四十條 在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名病性徵候治否及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ
- 第四十一條 已決囚新ニ入監スルトキハ其體質ヲ檢査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ
- 第四十二條 各監房及工場等ヲ巡廻シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ
- 第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ

其病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ闔室等ノ懲罰ニ處セラルヘキ者ヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否

ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察

治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ユヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典

獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者誕生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具

申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受ク

ヘシ

第四十九條 患者癩篤疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出ス

ヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄並ニ看守長ト俱ニ驗屍シ

其死亡ノ原由及病症死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘ

シ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ

申告スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ検査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械並ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ検査スヘシ

第三章 醫事制度

第一項 醫師

○布告第三拾五號 十六年十月廿三日

醫師免許規則別冊ノ通制定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年^ニ第四號布達同年^ハ第三拾九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

右奉 勅旨布告候事

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試験ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タル者トス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試験及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ノコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ノコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試験ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニヨリ内務卿ハ醫術開業試験ヲ經サ

ル者ト雖トモ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ受タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登録シ時々之ヲ公告スヘシ
第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事
由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納
スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内
務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其
開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停
業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ應印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ調査シ中央衛
生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○内務省達乙第四拾六號 十六年十一月十七日

本年第三拾五號布告醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東
京大學及ヒ左ノ條件ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候
條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル

一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス

一三名以上ノ醫學士(歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等)ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ

一生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ

一四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試験法ノ完備スルモノ

一生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ

一器械標本ノ具備スルモノ

○ 朕帝國大學令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○勅令第三號 十九年三月一日

帝國大學令 摘錄

第一條 帝國大學ハ國家ノ須要ニ應スル學術技藝ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攷究スルヲ以テ
目的トス

第二條 帝國大學ハ大學院及分科大學ヲ以テ構成ス大學院ハ學術技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ

分科大學ハ學術技藝ノ理論及應用ヲ教授スル所トス

第三條 分科大學ノ學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第四條 分科大學ノ卒業生若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ大學院ニ入り學術
技藝ノ蘊奧ヲ攷究シ定規ノ試験ヲ經タル者ニハ學位ヲ授與ス

第十條 分科大學ハ法科大學醫科大學工科大學文科大學理科大學及農科大學トス

二十三年六月十一日勅
令九十三號ヲ以テ及

理科大學ヲ(理科大學
及農科大學)ニ改メ第
三項ヲ追加ス

法科大學ヲ分テ法律學科及政治學科ノ二部トス
農科大學ヲ分テ農學科林學科及獸醫學科ノ三部トス

○ 朕中學校令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○ 勅令第十五號 十九年四月九日

中學校令 簡錄

第一條 中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 中學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等中學ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等中學校ハ全國北海道沖繩ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第七條 中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

○ 文部省告示第六號 二十年八月十九日

明治十九年^四勅令第十五號中學校令第三條高等中學校ノ醫科ヲ教授スル所ヲ醫學部トシ第一^四五ニ至ル各高等中學校ニ之ヲ設ク第二高等中學校醫學部ハ仙臺ニ第三高等中學校醫學部ハ岡山ニ第四高等中學校醫學部ハ金澤ニ置キ第一第五高等中學校醫學部ノ位置ハ追テ之ヲ定ム

○ 文部省告示第七號 二十年八月廿七日

本年^八文部省告示第六號中第五高等中學校醫學部ハ長崎ニ之ヲ置ク

○ 文部省告示第八號 二十年九月廿七日

本年^八文部省告示第六號中第一高等中學校醫學部ハ千葉ニ之ヲ置ク

○ 朕府縣立醫學校費用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○ 勅令第四十八號 二十年九月三十日

府縣立醫學校ノ費用ハ明治二十一年度以降地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スルコトヲ得ス

○ 內務省達乙第四號 十七年一月廿一日

從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相達候事

○ 內務省達甲第貳拾四號 十八年七月十日

從來當省ヨリ下付シタル醫術開業免狀左記ノ分詮議ノ次第有之今般免狀書換下渡候條該免狀所持ノ者ハ新規免狀交付舊免狀返納可爲致此旨相達候事

一 明治十七年一月以前醫術開業試驗ニ及第シ免狀授與ノ者

一 官立學校及外國ニ於テ醫學卒業セシニ據リ明治十七年三月十七日以前ニ免狀授與ノ者

一奉職履歷ニ據リ免狀授與ノ者

○內務省達乙第十四號

十五年三月二日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

醫師開業ノ儀ニ付テハ三府ハ明治八年二月文部省ヨリ各縣ハ同九年一月當省乙第五號ヲ以テ相達置候處從前開業醫ノ子弟ニシテ其助手ト相成居醫藥ヲ以テ家名相續致度輩ハ年齡當明治十五年六月滿二十五年以上ノ者ニ限リ從來開業醫ト看做不要試驗開業許可證ヲ與ヘ不苦候條此旨相達候事

○內務省達乙第七十六號

十年八月十六日

昨明治九年當省乙第五號ヲ以醫師試驗之儀相達從來開業之モノハ試驗ヲ要セス地方限リ鑑札等ヲ與ヘ新舊ヲ區分シ以テ醫術改進之基礎相立候處維新以來該術ヲ以諸官廳及地方公立病院ニ奉職從事シ主トシ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀可交付候條左ノ箇條ニ照觀シ本人之願書及履歷書ニ管廳ノ添書ヲ附シ可申出此旨相達候事

但自今官立醫學校ニ於テ卒業證書ヲ得シモノ、外ハ總テ成規之試驗ヲ遂候儀ト可相心得事

一內務省警視病院醫員及舊警視署醫員

但藥局專任ノモノハ此例ニアラス以下之ニ倣ヘ

一陸軍省軍醫副及ヒ軍醫試補以上

十五年四月十七日內務省達乙二十六號ヲ以テ開業許可證ヲ與フルハ當八月中ヲ期限トス

一海軍省軍醫副以上

一文部省及舊大學東校少得業生及ヒ醫學教官下醫當直醫以上並同省直轄諸學校醫員皇漢

醫道相續痘箱係ハ之ヲ除ク

一司法省及舊彈正臺醫員

一宮内省六等侍醫以上及舊少典醫舊權少侍醫以上

一開拓使病院醫員

一府縣病院及地方公立病院當直醫以上

○內務省告示第七號

十九年二月二十五日

一醫師產婆藥舖開業免狀紛失盜難ノ件(第一項)

一阿片特許及製造鑑札紛失盜難ノ件(第二項)

一製藥免許鑑札紛失盜難ノ件(第三項)

右自今告示セス官報ヲ以廣告スヘシ

○內務省訓示乾衛甲第一四號

十七年一月十七日

昨十六年第三十五號布告醫師免許規則第五條ニ依リ醫術假免狀授與ノ義ハ實際醫師欠乏ノ場所ニ限リ區域ヲ定メ開業差許候義ニ付其地ノ廣狹人口戶數及ヒ他ノ開業醫師アル村落ニ至ル道路ノ險易里程等詳細取調繪圖面相添本人履歷書ヲ併セ其時々可伺出此旨訓示候也

○衛生局通牒

十七年六月六日

客年太政官第三十五號布告醫師免許規則第五條仮開業免許醫師ノ義ハ山間若クハ孤島等極メテ僻陬邊境ニシテ到底本免許醫師移住ノ目途無之地ノ如キ萬々不得已場所ニ非サレハ詮議相成ヲサル等ニ有之其取扱手續ノ義ハ別紙ノ適當省ニ於テ内規相定有之候間御參考ノ爲メ及御回付置候條右ノ趣意ヲ以テ御取扱相成候様致度云々

一十六年第三十五號布告醫師免許規則第五條ニ據リ假開業免狀ヲ得トスルモノハ願書ニ開業地ノ郡村名ヲ明記シ履歷書ヲ添へ差出スモノトス

但シ地方廳ニ於テハ十七年乾甲第十四號訓示ノ取調方書ヲ添フヘシ

一醫師ニ乏シキ地ト認ムルハ開業醫師アル町村ニ隔絶シ患者往復ノ容易ナラサル場所ニ限ル其往復ノ便ヲ欠カサルノ地ニ於テハ其情况奈何ニ拘ハラヌ假開業ヲ許可セサルモノトス

但シ孤島ノ如キハ陸地ニ遠隔スルカ又ハ舟楫ノ便困難ニシテ時々通路ヲ絶ツ等ノモノヲ以テ本條ニ準スヘシ

一前條ノ願書ニハ其地ノ戶長衛生委員之ニ與書シ若シ意見アル片ハ其書面ヲ付スヘシ但シ本項ノ外尙郡區長ノ意見書若シクハ區醫開業醫等ノ保證書ヲ添へシムル等出願手續ニ係ル細則ヲ定ムルハ府知事縣令ノ適宜ニ任ス

一前條ノ出願者アル片ハ府知事縣令ニ於テ實際醫師ニ乏キ地ナルヤ否ヤヲ取調ヘ若シ乏シカラスト認ムル片ハ之ヲ具狀スルヲ要セム

一府知事縣令ニ於テ醫師ニ乏キ地ト認ムル片ハ願人ノ適否ニ拘ハラヌ之ヲ具狀スヘシ

但シ其願人ヲ不適當ナリトスル片ハ意見書ヲ添へ差出スヘシ

一假開業ヲ願フモノハ曾テ開業醫師ニ就キ其補助等ヲナシタル者又ハ醫學ヲ修行シ履歷アル者ニアラサレハ之ヲ許可セサルモノトス

一假開業醫師ハ免許區域外ニ出テ、區域外ノ患者ヲ診察治療スルヲ得ス

但シ區域外ノ患者ト雖モ區域内ニ來リテ診察治療ヲ乞フモノハ此限ニアラス

○内務省訓示坤衛第五九五號 十五年九月四日

今般第三十九號布告發行相成候ニ付テハ醫師タル者醫業ニ關シ犯罪有之處斷相成候節ハ大審院諸裁判所ヨリ當省へ通知有之候等ニ付當省ヨリ醫業停止若クハ禁止ノ義可相達事モ有之候得共自今醫師ニシテ不正ノ行爲アリ其職業ニ對シ萬々不可擱ト認メ候者有之節ハ刑法ニ觸ル、ト否トニ拘ラス詳細其事狀ヲ具シ其醫師ノ住所姓名年齢履歷書等ヲ添へ稟申候様可致此旨及訓示候也

○内務省訓示坤衛第一〇八四號 十六年十二月廿日

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則御布告相成候ニ付來ル十七年一月一日ヨリ客年第三十九號布告ハ廢止相成候得共客年九月四日附坤衛中第五九五號ヲ以テ及訓示置候手續ノ義ハ總テ從前ノ通相心得稟申可致此旨及訓示候也

○内務省訓令第九三號

廿四年二月十日
北海道廳府縣

醫師其業ニ關スル犯罪處分裁判確定ノ上ハ自今各裁判所ヨリ其廳へ通知可有之ニ付其通知ヲ得タルキハ速ニ左記ノ件取調へ尙ホ停禁處分ニ付意見ヲ具シ進達セラルヘク不正ノ行為ニ就テハ明治十六年^{十二}月^{十二}坤衛一〇八四號訓示ニ依リ左項ニ準シ取調進達セラレヘシ右訓令ス

一 本人平素ノ行狀

一 近傍開業醫ノ多少(村落等ノ場合ニ限ル)

一 其所爲ノ故意懈怠

一 傳染病ニ係ルキハ成規ノ届ヲ爲サ、ルモ消毒ハ法ノ如ク充分ニ施行センヤ否及爲メ

ニ他ニ病毒ヲ傳播セシ事實ノ有無(若シアラハ傳染ノ系統其廣狹緩急患者死者等ノ

トヲ詳記スヘシ)

○ 内務省訓示井衛甲第一二二號 十七年四月十八日 府縣

醫師藥舖兼業ノ義ハ不相成旨從來指令及置候向有之候處自今兼業爲致不苦義ト心得ヘシ此旨訓示候也

但藥舖試驗規則施行致居候向ニ於テハ成期ノ試驗ヲ遂ケ候ハ勿論ノ義ト心得ヘシ

○ 廣島縣甲第四拾七號 十七年五月一日

醫師ニシテ佗ニ轉籍寄留スルモノハ其移住地名ヲ詳記シ又本縣内ニ於テ新ニ開業スルモノハ其試驗ヲ受ケタル地名及年月并開業免許狀寫ヲ副へ速ニ届出ヘシ

十七年六月甲第八十号
ヲ以テ其試驗ヨリ十五
字挿入

右布達候事

○ 廣島縣甲第百四拾九號 十六年十二月十日

醫師出張所ヲ設ケ診察治療セントスル者ハ其位置ノ郡區町村名邸番等可届出且該出張所ニ開業許可ヲ得サル者ヲ差置配劑治療ヲ專任スル義ハ相成ラス

但從來設置候出張所ト雖モ本文ニ據リ此際届出ヘシ

右布達候事

○ 廣島縣甲第貳拾八號 十七年三月一日

醫師出張所ニ於テ配劑治療專任者差置候モノハ其姓名住所等詳細届出ヘシ但從前差置候モノハ此際届出ヘシ

右布達候事

○ 廣島縣甲第百貳拾八號 十七年九月五日

種痘免狀付與之儀明治十年^十縣甲第百四十一號ヲ以テ及布達置候處自今醫術開業免狀所持ノ者ハ別段種痘免狀下付方出願ニ及ハス

右布達候事

○ 廣島縣甲第百五拾七號 十七年十一月四日

本年^九甲第百廿八號本縣布達ヲ以テ種痘施術之儀相違置候處齒科整骨科專門者ハ種痘
施術相成ヲズ
右布達候事

○廣島縣告示甲第貳拾三號 廿五年三月廿九日
本年^三內務省令第一号ニ據リ登記印紙ヲ以テ納付スヘキ醫師並藥劑師免狀新規及書換
手数料ハ其願書ニ印紙ヲ貼付セス免狀下付ヲ得タル後該受書ヘ其金額相當ノ印紙ヲ貼
付消印^レ所轄郡市役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ

○布達第三十四号 明治十六年十月二十三日
今般第三十五号ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試驗規則別冊ノ通相定メ
明治十七年一月一日ヨリ施行ス
但明治十二年^二內務省甲第三号布達ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

醫術開業試驗規則

- 第一條 醫術ヲ開業セントスルモノハ此規則ニ依リ試驗ヲ受クヘシ
- 第二條 內務卿ハ毎年二回醫術開業試驗ヲ舉行スヘシ
但試驗ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試驗期日ハ六ヶ月前之ヲ內務卿ヨリ告示スヘシ
- 第三條

二十二年五月內務省令
第七号ヲ以テ第三條第

四條及ヒ第十二條ヲ刪
除ス

第四條

第五條 醫術開業試驗ハ之ヲ二期ニ分チ前期試驗後期試驗トス前後二期ノ試驗ヲ同時
ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試驗ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試驗科目

- 第一 物理學
- 第二 化學
- 第三 解剖學
- 第四 生理學

後期試驗科目

- 第一 外科學
- 第二 內科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗
- 第七條 齒科試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
- 第一 齒科解剖及生理

十七年一月三十一日
內務省告示第九號ニヨリ
但書追加

廿二年五月九日內務省
令第十號ヲ以テ本條中
主事者ヲ(委員長)ト
改正ス

同上ニヨリ削除

第二 齒科病理及治術

第三 齒科用藥品

第四 齒科用器械

第五 實地試驗

第八條 前期試驗ハ一ヶ年半年以上後期試験ハ更ニ一ヶ年半年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ內務省ニ進達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス

第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ內務省ニ具狀スヘシ內務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サ、ルコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験委員長試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

廿四年十一月內務省令
第十八號ヲ以テ改正

第十四條 醫術開業試験ヲ出願スルモノハ左ノ手数料ヲ願書ニ添ヘ其地方廳ニ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓

後期試験手数料 金五圓

齒科試験手数料 金五圓

第十五條 試験ヲ開届ケサルモノ及ヒ受験前死亡シタルモノ、外認テ納付シタル手数料ハ返付セズ

但シ止ヲ得サル事故アリテ受験前日迄ニ次回ヘ延期ヲ願出テ其許可ヲ與ヘタルハ次回ニ於テハ更ニ手数料ヲ徴収セズ

○內務省告示甲第貳拾六號 十六年十二月十日

今般大政官第三拾四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付右受験人心得左之通相定候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三拾四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條

廿一年八月廿八日內務省告示第九號ニヨリ三條
削除

第一項 醫師

十七年十二月十三日
内務省告示甲三十五號
ナ
以テ本條改正

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場へ相納ムヘシ
第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス
願書式

醫術開業試験願

住 所 (寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)
族 籍

氏 名

年 月 生

年 月 日

右 氏 名 印

戸 長 氏 名 印

衛生委員 氏 名 印

内務卿宛

○内務省告示第五十七號 廿四年十一月六日

私儀何年何月何地ニ於テ醫術開業前期(後期) 醫科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク 試験相受度別紙書類相添此段奉願候也

醫術開業試験並藥劑師試験願書ハ自今本人之ヲ自書シ且當年若クハ其前年ニ寫取リタル寫真一葉ヲ添附スヘシ

○内務省告示第九號 二十一年八月二十八日

醫術開業試験願書へハ自今許可ノ指令ヲ附セサルニ付該出願者ハ試験舉行ノ期日四日前ニ受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

○醫術開業試験場揭示

一 試験ハ毎日午前九時ニ始メ午後三時ニ終フ

但臨時終始時間ヲ變更スルハ其都度告知ス可シ

一 受験人ハ毎朝試験時限三十分前迄ニ到着シ溜所ニ扣居リ試験掛ノ差圖ニ從ヒ各自ノ番號順ニヨリ着席スヘシ

但試験場ニ着席シタル上ハ互ニ談話スルコトヲ許サス

一 洋服又ハ袴ヲ着スルニアラサレハ試験場ニ入ルヲ許サス

一 書籍其他書類ノ物ヲ携帶シテ試験場ニ入ルヲ許サス

一 受験人ハ筆墨ヲ持参スヘシ

但答記用紙并封筒ハ試験場ニ於テ渡スヘシ

一 試験場ニテハ受験人ノ番號ヲ用ヒ其氏名ヲ稱ス可ラス

一 受験人ハ試験掛ノ許可ナクシテ試験中本席ヲ離ルコトヲ許サス

一 答記書ハ眞片假名交リヲ以テ可成明瞭ニ記載スヘシ
 一 問題ノ疑義ヲ質サントスル者ハ右手ヲ揚ケ自己ノ番號ヲ唱ヘ質問ト呼フヘシ
 但二人以上同時ニ質問ヲ爲スヲ許サス
 一 問題答記ノ時間ハ一問ニ付一時間トス
 但同時ニ二問若クハ三問ヲ與フルルハ各問題答記ノ時間ヲ流用スルモ妨ケナシ
 一 答記書ハ各問題毎ニ一封筒ニ入レ其表ニ自己ノ番號及ヒ何學第何問ト記入シ掛員ニ渡スヘシ

但答記ヲ爲シ能ハサル者ハ其旨ヲ記シ本項ノ手續ヲ爲スヘシ
 一 試驗場ニ於テ渡シタル紙類ハ書損シタル紙片タリモ一切持歸ルヲ許サス
 一 試驗場取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事之ヲ退場セシムルヲアル可シ

○ 廣島縣告示甲第貳拾八號 廿五年四月十四日

明治十六年十月第三拾四號布達醫術開業試驗規則第拾五條但書及ヒ明治廿二年三月內務省令第三號藥劑師試驗規則第八條但書ニ據リ次回へ試驗延期ヲ出願スルルハ其願書ニ事故ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ

朕醫術開業試驗委員組織權限ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○ 勅令第六十二號 二十二年五月六日
 醫術開業試驗委員組織權限

第一條 醫術開業試驗委員ハ內務大臣ノ管轄ニ屬シ醫術開業試驗ヲ行フモノトス
 第二條 醫術開業試驗委員ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

試驗委員長
 試驗委員

宮内侍省醫
 陸海軍軍醫
 陸海軍藥劑官
 帝國大學及高等中學校教官
 其他醫師齒科醫及理化學家

書記 內務屬ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 試驗委員長及試驗委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス
 第四條 試驗委員長ハ醫術開業試驗一切ノ事務ヲ處理ス可シ
 委員長事故アルトキハ內務大臣ヨリ委員中ニ就キ代理ヲ命スルコトアル可シ
 第五條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタルモノニハ直ニ及第證書ヲ與フ可シ但及第證書ニハ試驗委員長試驗委員連署ス可シ
 第六條 試驗委員長ハ試驗了ルノ後其成績ヲ內務大臣ニ報告ス可シ
 第七條 書記ハ醫術醫業試驗ノ事務ニ關シ試驗委員長ノ指揮ヲ受ケ文書計算ニ從事ス

○ 廣島縣令甲第六十三號 二十一年四月二十八日

醫會規則別紙之通相定ム

〔別紙〕

醫會規則

- 第一條 醫會ハ學術ノ進歩ヲ圖リ醫師ノ風儀ヲ矯正スル爲メ開業醫師ニ於テ設ケルモノトス
- 第二條 醫會ハ每郡區内ノ醫師聯合組織スヘシ
- 第三條 各醫會ハ郡區名ヲ冠シ何醫會ト稱スヘシ
- 第四條 各醫會ハ更ニ數組ニ分チ便宜支會ヲ設ケヘシ
- 第五條 開業醫師ハ何等ノ事由アルモ會員タラサルコトヲ得ス
- 第六條 醫會ニハ正副會長及幹事ヲ置キ其事務ヲ整理措辦スヘシ幹事ハ又支會ノ理事者タルヘシ
- 第七條 各醫會ニ於テ必用ト認ムル片ハ聯合醫會ヲ開クヲ得此場合ニ於テハ臨時會長幹事ヲ設ケ第八條ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 醫會役員ノ姓名ハ其會長ヨリ郡區役所ヲ經由届出ヘシ異動アル片亦同シ
- 第九條 醫會ハ少クモ毎年一回支會ハ毎月一回聯合會ハ臨時開會スヘシ
- 第十條 醫會及聯合會ハ開會七日前所轄郡區役所ヲ經由届出ヘシ
- 第十一條 各醫會支會及聯合醫會ノ費用ハ會員ノ負擔トス
- 第十二條 醫事及衛生上意見アル片ハ其會ノ決議ヲ經テ會長ヨリ稟申スヘシ
- 第十三條 知事郡區長ヨリ諮問スル事件ハ醫會又ハ聯合醫會ノ決議ヲ經テ會長ヨリ答

申スヘシ

第十四條 醫會ハ左ノ事項ヲ標準トシテ細則ヲ設ケ規約ヲナシ認可ヲ經テ履行スヘシ

- 一 醫會ノ位置
 - 一 役員ノ數選舉法及權限
 - 一 支會ノ區域
 - 一 會議講談等ニ關スル規程
 - 一 費用收支ノ方法
- 其他地方ノ情況ニ係リ必要ノ事項
- 第十五條 聯合醫會及支會ノ細則ハ其會ヨリ届出ヘシ變更シタル片亦同シ
- 第十六條 聯合醫會及支會ニ係ル費用收支ノ方法ハ其會ノ決議ニ依ルヘシ

第二項 產婆

○行政官布告 元年十二月二十四日

近來產婆之者共賣藥ノ世話又ハ墮胎ノ取扱等致候者有之由相聞ヘ以テノ外ノ事ニ候元來產婆ハ人ノ性命ニモ相拘リ不容易職業ニ付仮令衆人ノ頼ヲ受テ無餘儀次第有之候共決シテ右等ノ取扱致間敷等ニ候以來萬一右様ノ所業於有之者御取糺ノ上屹度御答可有之候間爲心得兼テ相達候事

○廣島縣甲第貳百四拾五號 十八年十二月二十八日

產婆規則別紙之通相定ム

但明治十三年十一月甲第貳百四拾三號本縣布達ハ廢止ス
右布達候事

產婆規則

- 第一條 產婆ハ内務省若クハ本縣ノ免狀ヲ所持スルモノニアラザレバ營業スルヲ許サズ
- 第二條 本縣ノ免狀ヲ得ゾト欲スルモノハ修業履歷書ニ習熟證書ヲ添ヘ願出ベシ但左ノ各項ニ該ルモノハ出願スルコトヲ得ズ
- 第一項 年齡二十五年未滿ノモノ
- 第二項 產婆ノ業務ニ堪ヘザル形痼疾アルモノ
- 第三項 墮胎ノ所業アリシモノ

第三條 免狀ハ賣買買與又ハ讓與スルヲ許サズ

第四條 免狀ヲ毀失シ或ハ氏名ヲ更改シタルトキハ事由ヲ具シ書換又ハ更ニ下付ヲ願出ベシ

第五條 廢業死亡シタルトキ又ハ他府縣ヘ轉住セントスルトキハ速ニ其旨届出免狀ヲ返納スベシ

但他府縣ヘ轉住スルトキハ内務省免狀ハ返納スルニ及バズ

第六條 本縣内ニ於テ轉住シタルトキハ其旨届出ベシ

第七條 他府縣ノ者本縣内ニ於テ開業セントスルトキハ内務省免狀ノモノハ免狀寫ヲ添ヘ其旨届出府縣免狀ノモノハ其免狀寫ヲ添ヘ願出ベシ

第八條 產婦及生兒ニ内服藥ヲ與ヘ或ハ其藥方ヲ示指スルコトヲ許サズ

第九條 產婆ハ適宜組合ヲ設ケ集會ヲナシ學術ノ講習ヲナスベシ

但組合ハ可成多人數聯結スルヲ要ス

第一項 集會ノ場所及會員ノ住所姓名等所轄郡區役所ヲ經テ本縣衛生課ヘ届出スベシ

十九年三月甲第五十号
十條追加
二十一年四月縣令甲第
五十七号ヲ以テ更ニ第
十條追加

第二項

產婆

第三項 療屬

○內務省達甲第七號 十八年三月二十三日

府縣

入齒齒抜口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年^十第三拾四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本文之手續ヲ爲スニ及ハス

○廣島縣甲第六拾四號 十八年四月七日

入齒口中療治接骨等營業ノ者ハ明治十六年^十太政官第三拾四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候ニ付從來該營業者ニ限リ此際鑑札付與可致候條修學履歷書ハ其師若クハ醫師二名以上ノ保証書ヲ添本年五月三十一日限リ願出ヘシ
右布達候事

○廣島縣甲第百四拾四號 十八年十二月二十八日

入齒齒抜口中療治接骨營業取締規則別紙之通相定ム

但明治十六年^九甲第百五號本縣布達ハ廢止ス

右布達候事

(別紙)

入齒々抜口中療治接骨營業取締規則

第一條 入齒々抜口中療治接骨營業ハ各從來營業鑑札ヲ所持スルモノニ限ル

但入齒營業者ニシテ齒抜營業ヲナシ齒抜營業者ニシテ入齒營業ヲナスコトヲ得

第二條 新ニ前條ニ掲ケル營業ヲナサントスルモノハ明治十六年^十大政官第三拾四號

布達ニ據リ試驗ヲ經開業免許狀ヲ受クヘシ

第三條 第二條ニ據リ免許狀ヲ得タルモノハ此規則ノ取締ヲ受クベキ限ニアラズ

第四條 他府縣ニ於テ第一條ニ掲ケル營業ノ許可ヲ得タルモノ當條下ニ於テ開業セントスルトキハ原管廳ノ添書ヲ以テ願出ヘシ

第五條 本縣ノ營業者ニシテ他府縣ニ於テ開業セントスルトキハ鑑札ヲ返納シ添書下

付ヲ願出ヘシ

第六條 鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ氏名ヲ更改シタルトキハ書替又ハ更ニ下付ヲ願出ヘシ

第七條 廢業又ハ死亡シタルトキハ其旨届出鑑札ヲ返納スベシ

第八條 管内ニ於テ轉居シタルトキハ其旨届出ヘシ

第九條 營業ヲ停止又ハ禁止ノ處分ヲナシタルトキハ鑑札ヲ取上ケ其停止ニ係ルモノ

ハ幾年月日間停止ノ旨ヲ鑑札ニ裏書シ下付スベシ

第十條 各營業者ハ左ノ各項ヲ禁ス

一 免許外ノ手術ヲナスコト

一 内服藥劑ヲ與ヘ又ハ内服藥方ヲ指示スルコト

一 出張所若クハ露店ヲ設ケルコト

一 鑑札ヲ貸與又ハ讓與スルコト

第十一條 醫師治療中ノ患者ハ勿論他ニ病アルノ疑アルモノハ之ヲ醫師ニ質シ其指圖

十九年三月甲第五十号
并二十一年四月縣令
甲第五十七号ヲ以テ改
正

ヲ受クヘシ

第十二條 此規則中第四條第五條第六條第七條第八條第十條第十一條ニ違背シタルモ
ノハ違警罪ノ刑ヲ以テ罰セラルベシ

○布告 四年十一月三日

盲人ノ官職自今被廢候事

但シ從前檢校勾當座頭以下配當金取集ノハ勿論各持場ヲ區分シ針治按摩等他ノ營業
ヲ妨ケ候儀今後急度被差停候條是迄來往居留ノ盲人館々家業勝手ニ相營セ復籍入籍
等其者ノ望ミニ任セ各地方官ニ於テ寬裕ニ可取扱候事

○內務省達甲第拾號

十八年三月二十五日

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者并ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業
履歷ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事
但シ既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

○廣島縣甲第四十九号

十六年五月八日

鍼灸灸治者取締規則左之通相定候條右營業セント欲スル者ハ修業履歷書ハ其師若クハ
醫師二名以上ノ保証書相添ヘ鑑札願受クベシ
右布達候事

十八年四月甲第六十八
号ヲ以テ修業ヨリ十一
字挿入

針灸灸治營業者取締規則

第一條 鍼灸灸治者トモ鑑札ヲ所持スルモノニ非サレハ營業スルコトヲ許サス

第二條 鍼灸灸治者ハ年齡滿二十年以上ノモノニ非サレハ營業スルコトヲ許サス

第三條 醫師治療中ノ病者ニ鍼灸灸治ヲ施ス時ハ其醫師ノ指圖ヲ受クルニアラサレハ
施術スルコトヲ許サス

但妊婦ノ請求ハ總テ本文ニ準スヘシ

第四條 鍼灸灸治營業者ハ藥劑ヲ與ヘ或ハ方劑ヲ指示スヘカラス

第五條 夢想神託ナゾト唱ヘ灸治シ又ハ過大ノ熱艾ヲ以テ妄リニ灸治ヲ施ス事ヲ許サ
ス

第六條 免許鑑札ヲ遺失毀損シ若クハ改姓名ノトキハ其事由ヲ具シ書換又ハ下付ヲ願
出管内ノ轉住ハ其旨届出他府縣ヘ轉籍寄留或ハ廢業死亡スルトキハ免許鑑札ヲ返納
スヘシ

第七條 鍼灸灸治營業者ニシテ他府縣ニ於テ其業ヲ營マントスル者ハ添書下付ヲ願出
スヘシ

第八條 本則ニ違犯シタル者ハ警違罪ノ刑ヲ以テ罰セラルベシ

○廣島縣訓令甲第貳拾八号

二十三年四月十二日
郡市役所

鍼灸灸治營業者ハ其師若クハ醫師二名以上ノ習熟保証ヲ受ケ出願候事ニ候處近來其師
若クハ醫師ニ於テ其習熟ト否トヲ問ハス是レカ保証ヲナスモノ儘有之就テハ鍼灸灸治

二十二年四月縣令甲第
七十六号ヲ以テ改正
十八年十二月甲第百
二十七号ヲ以テ追加
二十一年四月縣令甲第
五十七号ヲ以テ追加

ノ何モノタルヲ知ラサルモノニレテ一朝免許ヲ得其業ニ從事シ爲ノニ不測ノ不幸ヲ蒙
ムリ候モノモ有之哉ニ相聞ヘ不容易義ニ候條自今後ハ果シテ習熟ノ者ニ非サレハ慢ニ
保証書ヲ與フルノ弊無之様一層注意可致旨各醫師及鍼灸治營業者ヘ示達スヘシ
右訓令ス

第四項 藥劑師藥種商製藥者并藥品

朕藥品營業並藥品取扱規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○法律第十號 二十二年三月十五日

藥品營業並藥品取扱規則

第一章 藥劑師

第一條 藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條 藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀
ヲ得タル者ニ限ル

第三條 藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願
出ヘシ

第四條 藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第五條 藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告ス
ヘシ

第六條 藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタル
トキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條 書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條 藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ

第九條 藥劑師ニ非サレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

- 第十條 藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以内ニ地方廳ニ届出ヘシ
- 第十一條 藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ
- 第十二條 藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ
- 第十三條 藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ一「サ」チグラムニテモ得ルモノヲ備フヘシ
- 第十四條 藥劑師ハ患者ノ氏名年齢藥名分量用法用量處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス
- 第十五條 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ
- 第十六條 處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第十七條 處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ代用スルコトヲ得ス
- 第十八條 毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ
- 第十九條 患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ内外用ノ別用法用量年

月日患者ノ氏名藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章 藥種商

- 第二十條 藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ
- 第二十一條 藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十二條 毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章 製藥者

- 第二十三條 製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ
- 第二十四條 製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第二十五條 毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章 藥品取扱

- 第二十六條 日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性状品質該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第二十七條 日本藥局方ニ記載セサル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性状品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 何レノ藥局方ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ検査ヲ經其試驗成績ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
- 第二十八條 藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定ニ從フヘシ

第二十九條 毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條 毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名量數使用ノ目的年月日及住所氏名職業ヲ記シ日捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條 毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條 毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條 藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條 藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條 毒藥劇藥ノ品目ハ內務省分ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ其藥名ヲ記スヘシ但羅旬語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條 藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條 內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ

監視員ハ巡視ノ際其證書ヲ携帯スヘシ

第五章 罰則

第三十九條 官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條 內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲ノ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

二十五年六月法律第六
号ヲ以テ第四十六條中
追加

報告期限ハ内務報告例
ニヨリ改正

ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條 此規則施行以前ニ於テ内務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

第四十六條 醫科大學藥學科及高等中學醫學部藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齢滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣ハ試験ヲ受セスンテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條 明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○内務省訓令第三十四號 二十二年八月三日

藥品營業並藥品取扱規則第八條ニ據リ届出タル藥劑師廢業又ハ死亡者ハ其年月日族籍氏名並免狀番號ヲ記載シ一箇月分取繼ノ翌月十日限リ當省ニ報告スヘシ

○内務省令第一號 二十四年四月七日

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第八條届書ニハ免狀ヲ添付スヘク其死亡ニ係ル届出ハ戶主之ヲ爲スヘシ戶主未定又ハ不在ナルトキハ死者ノ相續者相續者未定又ハ不在ナルトキハ其財産ヲ管理スル者之ヲ爲スヘシ

○廣島縣令甲第四拾三號 廿三年二月十八日

明治廿二年三月法律第拾號第四十二條ニ據リ藥種商並製藥者取締細則左之通相定ム

藥種商並製藥者取締細則

第一章 通則

第一條 藥種商若クハ製藥者タラント欲スル者ハ住所(自宅外ニ於テ營業ノモノハ其場所共)族籍氏名年齢ヲ詳記シ所轄郡市役所ヲ經テ其旨願出免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 藥種商並製藥者其免許鑑札ヲ毀損亡失シ又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ事由ヲ詳記シ所轄郡市役所ヲ經テ再渡若クハ書換ヲ願出ツヘシ

第三條 藥種商並製藥者廢業若クハ死亡シタルトキハ十日以内ニ免許鑑札返納スヘシ

第四條 藥種商並製藥者他府縣ニ轉任セントスル者ハ所轄郡市役所ヲ經テ免許鑑札ヲ返納スヘシ

管内轉住ノ者ハ所轄郡市役所ヲ經テ其旨願出ツヘシ

第五條 藥種商ニ於テ數容器ニ分チタル藥品又ハ製藥者自己ノ製品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲナスヘシ

但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタル者ハ此限ニアラズ

第六條 藥種商並製藥者ニ於テ使用セル封緘用印紙ハ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 藥種商並製藥者ハ店頭若クハ門戸ニ左ノ招牌ヲ掲クヘシ

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

曲尺 三尺

明治 年月 日 免許
住 所
氏 名
招 牌
木製
藥種商
營業

第八條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品ノ販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ
第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及バスト雖モ該條ニ準シ届出其他尙第五條第六條第九
條第十一條第十二條ヲ遵守スベシ

但廢業又ハ轉任ノモノハ其旨届ケ出ツベシ

第九條 藥種商並製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トハ區別シ置クヘシ

第二章 藥種商

第十條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更テニ數容器ニ分チタルトキハ其容器ニ製藥者
(藥品製造會社ナレバ其所在地名及會社名)若クハ外國藥品引取人ノ住所氏名ヲ記ス
ルノ外自己ノ住所氏名ヲモ併記スヘシ

但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス

第十一條 藥種商支店ヲ設ケントスルトキハ別ニ管理者ヲ定メ所轄郡市役所ヲ經テ其
旨届ケ出ツヘシ

第三章 製藥者

第十二條 每年末其年間ニ製造セン各藥品ノ量數ヲ統計シ翌年一月三十一日限リ所轄
郡市役所ヲ經テ當廳ニ届出ツヘシ

第四章 罰則

第十三條 第二條第三條第四條第九條第十條第十一條ニ違背シタル者及第六條ノ命令
ニ違ハサル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附則

第十四條 此細則施行以前ニ下付セン藥種商免許鑑札ハ有効ノモノトス

第十五條 從來內務省ニ於テ製藥免許ノモノモ更テニ當廳ノ免許鑑札ヲ受クベシ

第十六條 此細則ハ來ル三月一日ヨリ施行ス

第十七條 明治二十年六月廣島縣令甲第五十一號藥種商營業規則ハ此細則施行ノ日ヨリ
廢止ス

○內務省令第三號 二十二年三月二十七日

藥劑師試驗規則左ノ通之ヲ定ム

藥劑師試驗規則

第一條 藥劑師タラントスル者ハ此規則ニ據リ試驗ヲ受クヘシ

第二條 藥劑師試驗ハ內務大臣ニ於テ毎年二回試驗主事者及ヒ試驗委員ヲ選任シテ舉
行スヘシ其舉行ノ地及ヒ試驗期日ハ六箇月前之ヲ告示スヘシ

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

第三條 試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

學說

第一 物理學

第三 植物學

第五 製藥化學

實地

第一 分析術

第三 藥物製煉

第四條 試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ヲ試驗期日三箇月前ニ内務省宛ニテ地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ試驗期日一箇月前ニ之ヲ取纏メ内務省ニ進達スヘシ

第五條 試驗ニ及第シタル者ニハ試驗王事者ヨリ試驗委員ト連署シタル及第證書ヲ與フヘシ

第六條 藥劑師試驗ヲ出願スルモノハ試驗手数料金五圓ヲ願書ニ添ヘ其地方廳ニ納ムヘシ

第七條 受験上不都合ノ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 試験ノ開届ケサルモノ及受験前死亡シタルモノ、外總テ第六條ノ手数料ヲ返付セズ但シ止ヲ得サル事故アリテ受験前日迄ニ次回ヘ延期願出其許可ヲ與ヘタルキハ次回ニ於テハ更ニ手数料ヲ徴収セス

第九條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

二十四年十一月内務省令第十九號ヲ以テ改正
全上

○内務省告示第七號 二十三年二月十四日

藥劑師試驗受験人心得左ノ通相定ム

藥劑師試驗受験人心得

第一條 藥劑師試験ハ常省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受ケルコトヲ得ヘシ

第二條 藥劑師試験ヲ受ケント欲スルモノハ明治二十二年三月内務省令第三號藥劑師試験規則第四條ニ據リ左記書式ノ願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 藥劑師試験願書ハ許可ノ指令ヲ付セサルニ付該出願者ハ試験舉行ノ期日四日前ニ受験地ニ到着シ宿所氏名ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

願書式

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏名

生年月

私儀何年何月何地ニ於テ藥劑師試験相受度此段奉願候也

氏名印

年月日

市長(三府ハ廳長)若クハ町村長(市町村制ヲ實施セサル地方ハ戶長)

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

内務大臣宛

氏名 印

○藥劑師試驗場揭示

- 一 試驗ハ毎日午前九時ニ始メ午後三時ニ終フ
- 但終始時間ヲ變更スルハ其都度告知ス可シ
- 一 受験人ハ試驗施行時間三十分前迄ニ到着シ溜所ニ扣居リ試験掛ノ差圖ニ從ヒ各自ノ番號順ニヨリ着席スヘシ
- 但試験場ニ着席シタル上ハ互ニ談話スルコトヲ許サス
- 一 洋服又ハ袴ヲ着スルニアラサレハ試験場ニ入ルヲ許サス
- 但女子ハ此限ニアラス
- 一 書籍其他書類様ノ物ヲ携帯シテ試験場ニ入ルヲ許サス
- 一 受験人ハ筆墨ヲ持參スヘシ
- 但答記用紙并封筒ハ試験場ニ於テ渡スヘシ
- 一 試験場ニテハ受験人ノ番號ヲ用ヒ其氏名ヲ用ユ可ラス
- 一 受験人ハ試験掛ノ許可ナクシテ試験中本席ヲ離ルコトヲ許サス
- 一 答記書ハ眞片假名交リヲ以テ可成明瞭ニ記載スヘシ
- 一 問題ノ疑義ヲ質サントスル者ハ右手ヲ揚ケ自己ノ番號ヲ唱ヘ質問ト呼フヘシ
- 但二人以上同時ニ質問ヲ爲スヲ許サス

一 問題答記ノ時間ハ一問ニ付一時間トス

但同時ニ二問以上ヲ與フルハ各問題答記ノ時間ヲ流用スルモ妨ケナシ

一 答記書ハ各問題毎ニ一封筒ニ入レ其表ニ自己ノ番號及ヒ何學第何問ト記入シ掛員ニ渡スヘシ

但答記ヲ爲シ能ハザル者ハ其旨ヲ記シ本項ノ手續ヲ爲スヘシ

一 試験場ニ於テ渡シタル紙類ハ書損シタル紙片タリトモ一切持歸ルコトヲ許サス

一 受験上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事ヨリ退場ヲ命スルコトアルベシ

一 學說試験ノ成績實地試験ヲ受ク可キ資格ニ達セザルトキハ落第トシ實地試験ヲ爲サズ

一 試験及第者ノ氏名ハ試験場ニ揭示シ落第者ノ氏名ハ別ニ告知セズ

○内務省令第四號 二十二年三月二十七日

藥品巡視規則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

藥品巡視規則

第一條 衛生官吏警察官吏及ヒ藥劑師ヲ以テ監視員ト爲シ藥局及ヒ藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムヘシ

第二條 監視員藥局ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品

二 藥品營業並藥品取扱規則第十二條第十三條第二十八條第二十九條第三十六條第

三十七條ノ事項

三 調劑録

等三條 監視員藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視スルトキハ左ノ各項ヲ検査スヘシ

一 藥品
二 藥品營業並藥品取扱規則第二十二條第二十八條第二十九條第三十六條第三十七條ノ事項

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査スルコトアルヘシ

第五條 第二條第三條ノ外ニ於テ藥品ヲ貯藏スル場所アレハ其場所ニ就キ検査スルコトアルヘシ

第六條 巡視ノ期日ハ豫メ告示セシ其時間ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ間トス

第七條 監視員ハ必要量ノ藥品ヲ携歸シテ検査スルコトアルヘシ

第八條 監視員ノ検査ニ消費シタル藥品ハ其代價ヲ請求スルコトヲ得ス

○内務省訓令第三十八號 二十二年九月二十六日

廣島縣

明治二十二年三月法律第十號監視員ノ巡視ハ同年同省令第四號ニ依リ其應ニ於テ施行

シ且右ニ係ル費用監視員ノ俸給
旅費日當共及藥種商製藥者鑑札製作費ハ其應經費定額内ヲ以テ支辨

スル義ト心得ヘシ

但監視員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ雛形ニ準シ其應ニ於テ交付シ尙ホ之ヲ管内ニ告示スヘシ

紙製

曲尺或寸或分

表

藥品監視員之證

字ハ四角

裏

應 府
縣 名

印 廳

紙製

曲尺或寸或分

第何號

表 藥品監視員之證

字ハ四角

裏

廣 島 縣

印 廳

○廣島縣告示第九拾九号 廿二年十月五日

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則第三十八條監視員ノ携帶スヘキ證票左ノ雛形ノ通相定ム

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

○內務省令第二號 廿五年三月十一日
 明治廿二年三月法律第拾號藥品營業並ニ藥品取扱規則第三拾五條ニ據リ明治廿二年三月內務省令第五號ヲ以テ定メタル毒藥劇藥ノ品目左ノ通り改正シ明治廿五年四月一日ヨリ施行ス

毒藥

亞砒酸(白砒石礬石、ア)

砒酸亞錫羅必涅

昇汞(過格質、兒汞)

黃色酸化汞(黃降汞)

亞砒酸加留謨液(法列)

砒酸莫兒比涅

燐

鹽酸必魯加兒必涅

勿拉篤利涅

鹽酸亞剎莫兒比涅

加刺拔兒豆越幾斯

赤色沃度汞(過沃)

赤色酸化汞(赤降)

鹽酸莫兒比涅

巴豆油

撒里矢爾酸比蘇斯知偈密涅(撒里矢爾酸)

硝酸斯篤利幾尼涅

以上日本藥局方第二表ニ掲載セルモノ

砒素、亞砒酸鹽類、砒酸及其鹽類

アコニチチ及其鹽類

硫化砒素(雄黃、雞冠石)

フロンチ及其鹽類

コニイチ及其鹽類

實菱答林

硝酸亞酸化汞

非沃斯矢涅及其鹽類

藏化加留謨(青酸)

莫兒比涅鹽類

比蘇斯知偈密涅(鹹提)鹽類

斯篤利幾尼涅鹽類

青酸、稀青酸

沃度砒素

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

亞篤羅必涅鹽類

錫答利陳及錫答利陳酸鹽類

クラーレ(矢毒、ソラ)

ホムアトロピチ及其鹽類

撒里矢爾酸汞

非沃斯矢亞密涅及其鹽類

沃度砒汞液(度納、殺液)

ニコチチ

劇藥

必魯加兒必涅鹽類

石炭酸

格羅謨酸

粗製鹽酸

粗製石炭酸

鹽酸

硝酸

發烟硝酸

粗製硫酸

安知歇錫林(亞設篤亞、厄里度)

杏仁水、苦扁桃水、老利兒結兒斯水、バク干水

結晶硝酸銀

熔製硝酸銀

貌羅謨樟腦

稀酸錫儲謨

嚼囉仿謨

古埤乙涅

發泡古魯胃謨

銅鑿(神效、石)

古魯聖篤越幾斯

阿片越幾斯

麥角越幾斯

實斐答里斯葉

印度大麻草

葇若草、別刺敦那草

黃色沃度汞(亞沃、度汞)

沃度仿謨

苛性加里(腐蝕劑、錫亞斯)

沃度加留謨

刺苦毛葛留謨
 偏答百兒加液
 苛性那篤倫(廣融 曹達)
 阿片
 醋酸鉛(鉛糖)
 吐根
 莨菪根、別刺敦那根
 剝度比爾謨脂(剝度比 爾林)
 麥角
 加刺拔兒豆
 吐酒石
 知母爾
 古爾矢屈謨丁幾
 實菱答里斯丁幾
 吐根丁幾
 阿片丁幾
 硫酸
 亞硝酸亞密爾
 安知必林

硝酸銀加硝石
 靛羅謨(臭素)
 羯答利斯(豆班 貓)、芫菁
 抱水格魯拉爾
 鹽酸古加乙涅
 咖啡涅
 硫酸銅(胸藥)
 印度大麻越幾斯
 非沃斯越幾斯
 莨菪越幾斯、別刺敦那越幾斯
 番木鱉越幾斯
 古魯聖篤實
 非沃斯草
 甘汞、輕粉(亞格魯 兒汞)
 白降汞
 沃度
 格魯兒酸加留謨(蠟素酸 加留謨)
 結麗阿曹篤
 莨菪擦劑、別刺敦那擦劑

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

鉛醋(次醋酸 鉛液)
 揮發芥子油
 古魯聖篤非沃斯丸
 挖勿兒散(阿片吐 根散)
 蒺刺巴根
 蒺刺巴脂
 珊篤寧
 古爾矢屈謨子
 番木鱉子
 金硫黃(五硫化安 知母紐謨)
 錫答利斯丁幾、芫菁丁幾
 古魯聖篤丁幾
 沃度丁幾
 魯別里亞丁幾
 阿片安息香丁幾(阿片樟 腦丁幾)
 葛若丁幾別刺敦那丁幾
 古爾矢屈謨酒
 芳香阿片酒(含電毒謨 阿美移液)
 格魯兒亞鉛

番木鱉丁幾
 吐根酒
 吐酒石酒
 硫酸亞鉛(暗礬)
 以上日本藥局方第三表ニ掲載セルモノ
 硝酸(王水)
 粗製硝酸
 ビクリン酸及其鹽類
 强安母尼亞水
 格魯兒拔留謨硝酸拔留謨其他拔留謨鹽類
 攝留謨鹽類
 咖啡涅鹽類
 硫酸銅安母紐謨(銅礬) 醋酸銅、次醋酸銅(綠青、山綠、銅) 次炭酸銅(緋青) 硝酸銅(サヒナ葉及)
 其製劑
 密實(日本產 大苗香)
 藤黃(辦天 哇黃)
 汞灰散(銀灰)
 沃度爾
 サピナ油

藜蘆根及其製劑

サバチルラ子

フエロース次亞磷酸鹽舍利別

醋酸亞鉛、碳酸亞鉛、續草酸亞鉛

格羅謨酸鹽類

漆酸

發烟硫酸

コロ、ダイソ

曼陀羅華葉、子及其製劑

グアヤコール

古紐謨草及其製劑

硫酸汞(硫酸酸)

揮發苦扁桃油

アコニット根(雙葉薯、馬頭、附子、類)及其製劑

巴豆

ストロファンツス子及其製劑

酸化安知母紐謨

○内務省令第五號 二十四年五月二十日

明治十九年^六當省令第十號日本藥局方左ノ通改正^レ明治二十五年一月一日ヨリ施行ス
但前日本藥局方所載ノ藥品ハ本方施行ノ後ト雖モ明治二十六年十二月三十一日マテ
ハ本方ト共ニ仍ホ其効ヲ有ス其前日本藥局方ニ據ルモノハ「前日本藥局方」ノ六字ヲ
明記スヘシ(別冊署ス)

○衛生局報告第五十六號 二十年三月十日

本邦常用ノ藥品名ニハ往時ヨリ慣用シ來レル譯名ノ不允當ナルモノアリ又其譯名及稱
呼ノ種々ナルモノアリシカ爲メ其換用スヘカヲサル者ヲ換用シ却テ換用シ得ヘキ者ヲ
換用セス或ハ一種ニシテ數箇ノ名稱アリテ恰モ別物ノ如キ者少シトセス依テ日本藥局
方所載ノ藥品名ト世上慣用セル藥品名トノ異同等ヲ左ニ表示シ當業者ヲシテ錯誤ナカ
ラシメントス此旨報告ス

(甲表)從來慣用セル藥名ノ當否及他ノ藥品トノ種別并彼此換用ノ可否

澱粉 「アロールート」等ヲ換用スルモ妨ナシ

蜀葵根 舶載ノ亞爾答亞根ヲ換用スルモ妨ナシ

別刺致那 莨菪ヲ以テ之ニ充ツルノ舊慣ナレド異種ノ植物トス未ダ成分ノ精驗ヲ經サ
ル間ハ混視スヘカラス

樟腦 本邦産ノ樟腦ヲ精製シタル者トス龍腦及ヒ白手龍腦(艾片)ハ異物トス

獨谷利斯 本邦産ノ班猫(葛上亭長)ナリ舶載芫菁ヲ製劑用ニ換用スルモ妨ナシ

菖蒲 舶載ノ「カラムス」ヲ用ユルモ妨ナシ

縮紗 従前「カルダモーム」ニ充テ益智ヲ使用シタル場合ニ用ユ「カルダモーム」ヲ換用スルモ妨ナシ

麥角 従前麥奴ト名稱シタル者ナリ麥奴ハ「クロンボ」ノ漢名ナルヲ以テ之ヲ改正セ

五倍子 沒食子ノ場合ニ用ユ

龍膽 舶載ノ健實亞那ヲ換用スルモ妨ナシ

甘艸 舶載ノ甘草ヲ換用スルモ妨ナシ

杜松實 本邦産ノ杜松ハ未タ精檢ヲ經サレハ猶ホ混視シ難シ

薄荷 舶載ノ薄荷類即チ「メント」ニペリタ「及」ノ「メント」ヲ換用スルモ妨ナシ

密兒拉 從來沒藥ト名稱シ來リシ者ナレ本邦藥品市場ニ於テ此名ノ者ハ極テ不純ノ品ノミニ「花沒藥」如キハ全ク異物トス故ニ原名ヲ取レリ

拉讓奴斯 従前多ク「フランク」度ト名稱シタル者ナリ他ノ生葉ニ倣フテ植物ノ主名ヲ取レリ

接骨木花 本邦産ノ接骨木花ハ通常香氣少ナン茲ニハ舶載ノ物ヲ取レリ

攝涅瓦 從來遠志ト譯シ來レト攝涅瓦ハ米國産ノ「ポリガラ」セチカニ限ルヘシ混視スヘカラス

安母尼亞茴香精 礫砂加送泥子精ノ場合ニ用ユ

顯劑 本邦産顯劑ハ未タ精檢ヲ經ス茲ニハ舶載顯劑ヲ取レリ蓋シ換用スルモ妨ナカ

（乙表）同一物ニシテ從來慣用セル別名
藥局方中記載ノ藥名 世上ニ行ハル、別名

礪酸 蓬酸

撒里失爾酸 水楊酸

鞣酸 單寧 單寧酸

豚脂 家猪脂

依的兒 硫酸依的兒

炭酸安母紐護 炭酸安母尼亞

凡ソ安母紐護鹽ニシテ従前某酸安母尼亞トセルモノ一切某酸安母紐護トセリ

格魯兒化安母紐護 鹽化安母紐護

凡ハ格魯兒化鹽ニシテ従前鹽化某金屬トセルモノ一切格魯兒化某金屬トセリ

格魯兒水 鹽素水

次硝酸蒼鉛 鹽基性硝酸蒼鉛硝酸「ミスミット」

貌羅護 臭素

菖蒲 泥菖根

沈降製炭酸加爾叟護 沈降製炭酸石灰

凡ソ加爾叟護鹽ニシテ従前某酸石灰若クハ某酸加爾基トセルモノ一切某酸加爾叟護トセリ

格魯兒石灰
 貌羅謨化樟腦
 丁香
 乙斯蘭土苔
 咖啡涅
 英法粘着硬膏
 酒石酸鐵加留謨
 凡ソ加留謨鹽ニシテ從前某酸加里若クハ某酸剝篤亞斯トシタルモノ一切某酸加留謨トセリ

過格魯兒化鐵
 次炭酸鐵
 粗製硫酸鐵
 還元鐵
 黃色沃度化汞(沃度化汞)
 昇汞(過格魯兒化汞)
 赤色沃度化汞(過沃度化汞)
 苛性加里
 綿羅謨化加留謨
 凡ソ貌羅謨化鹽ニシテ從前臭素化某金屬トセルモノ一切貌羅謨化某金屬トセリ

「コロール」加爾基
 臭化片腦
 丁香
 依蘭苔
 「ティン」
 絆創膏
 酒石酸鐵加里

一半鹽化鐵
 鹽基性炭酸鐵
 炭酸鐵
 綠礬
 水素還元鐵
 第一沃汞
 猛汞
 第二沃汞
 水化加留謨
 腐蝕剝篤亞斯
 臭素化加留謨
 臭素化剝篤亞斯

格魯兒酸加留謨
 過格魯兒化鐵液
 魯別利亞
 炭酸麻偏涅叟謨
 凡ソ麻偏涅叟謨ニシテ從前某酸苦土若クハ某酸麻偏涅叟亞トシタルモノ一切某酸
 麻偏涅叟謨トセリ

黑酸化滿俺
 醋酸那魯留謨
 凡ソ那魯留謨鹽ニシテ從前某酸曹達若クハ那魯倫トナセシモノ一切某酸那魯留謨トセリ

(附言)「アルカロイド」ニ屬スルモノハ皆「チ」(涅)ノ語尾ヲ付シ他ノ植物素ハ「ソ」ヲ以テ終ル故ニ「サントニーチ」ヲ珊瑚寧トシ「サリシチ」ヲ鐵里聖トシ「コデイソ」ヲ古埋乙涅トシルカ如キ從前ノ慣用ト差異ヲ生シタルモノアリ

又從前「チンクツール」ヲ丁幾ト「エキストラクト」ヲ越幾斯ト略書シ又ハ非沃斯ヲ以テ「ヒヨスレアムス」ノ略名トシタルモノ盡ク之ヲ補充セリト雖モ尋常處方及藥瓶上ニハ丁幾越幾斯等ト略書スルハ素ヨリ妨ナシ

○內務省告示第二十五號 十九年十月七日
 薄荷草ヨリ製出スル結晶性ノ藥品ハ從來薄荷精ノ名ヲ以テ製造免許鑑札下付セシ處右

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

ハ日本藥局方所載ノ薄荷精ト抵觸スルニ付薄荷腦ト改稱ス就テハ自今從來ノ薄荷精ヲ製造販賣セントスル者ハ薄荷腦ノ名稱ヲ用フヘシ

○内務省令第三號 廿四年五月二日

コホ結核病治療液(テュベル)ハ官立府縣立病院ニ限り之ヲ使用スルコトヲ得其他病院若クハ醫師ニシテ相當ノ準備アル病室ヲ有スル者之ヲ使用セントスルトキハ豫メ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ内務大臣ハ中央衛生會ノ審議ヲ經テ之ヲ認可シ若クハ認可セサルコトアルヘシ
該液ハ外來患者ニ使用スルコトヲ得
地方長官ハ該液ノ使用ニ關シ特ニ監督者ヲ派出シテ臨檢セシムルコトアルヘシ
該液ヲ使用シタル者ハ左ノ書式ニ依リ其使用終結ニ至リタル患者ノ治療表ヲ製シ毎月内務大臣ニ報告スヘシ
本令第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以内ノ罰金ニ處ス

結核病治療液治療表

既往症及	年 月 日 調	醫師 住所
現在症	第 號 患者 病名	職業 姓名 年 齡

注 入 ノ 月 日	及 其 量	反 應	諸 症	成 績

既往ノ病歴注入前ノ現在症及結核菌ノ有無ハ既往症及現在症ノ欄下ニ注入後ノ體温呼吸脈搏ノ狀況惡寒戰慄頭痛惡心發疹倦怠等ノ諸症ハ反應諸症ノ欄下ニ體量ノ増減及ヒ全治輕快無効死亡ハ成績ノ欄下ニ記スヘシ

○廣島縣告示第三拾九號 廿四年五月八日

本年内務省令第三號ニ據リコツボ氏結核病治療液ヲ使用セントスルモノニシテ内務大臣ノ許可ヲ請フキハ其書面ニ左ノ事項ヲ記載所轄郡市役所ヲ經由差出スヘシ
一 院長若クハ醫師ノ履歷
一 病室ノ數其廣狹及該患者ヲ入ルヘキ豫定數
一 助手及看病人ノ數其每人ニ受持タシムヘキ患者ノ豫定數但助手ハ履歷ノ概略ヲ添フヘシ

第四項

藥劑師藥種商製藥者并藥品

一 結核菌ヲ檢スルニ適當ナル顯微鏡ノ有無其他檢査用ノ器具

○內務省告示第四号 廿四年二月十九日

普魯士國教授ロベルト・コッホ氏ノ發明ニ係ル結核病治療液ハ明治二十二年三月法律第十号藥品營業并ニ藥品取扱規則第二十七條第二項ニ據ルモノトス

○廣島縣丙第百貳拾七號

十七年六月十九日

郡區役所

藥舖營業組合手續左ノ通相定メ候條本籍寄留ヲ問ハス該業ヲナス者ハ來ル八月ヲ限リ組合相設候様其郡區内藥舖營業者へ通達スヘシ此旨相達候事

藥舖營業組合手續

第一條 藥舖組合ハ藥品ノ取扱方並ニ本業ニ關スル學術ノ研究及ヒ法令ヲ履行スル等相互ノ規約ヲ定メ專ラ藥舖ノ本分ヲ盡スヲ以テ目的トス

第二條 組合ハ適宜聯合シ可成多人数ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三條 每組合幹事ヲ公撰シ一切ノ事務ヲ綜理セシムルモノトス

第四條 組合ヲ定ムル時ハ其組合營業者及ヒ幹事ノ住所氏名ヲ記載シ組合規約ヲ副へ

郡區役所ヲ經テ本縣衛生課へ届出ヘシ

但異動アル時ハ翌月中本文ニ準シ届出ヘシ

第五條 業務ニ關スル法令又ハ學術等ハ便宜研究會ヲ開キ講究スルヲ要ス

第六條 各種藥品中粗製賈造又ハ瓶器ノ商標不正ト認ムルモノアル時ハ賣主住所氏名

ヲ詳記シ現品ヲ副へ郡區役所ヲ經テ本縣衛生課へ申告スヘシ

第七條 前條ノ場合ニ於テ組合企業者へハ勿論佗ノ接近セル組合及ヒ醫師組合へモ速ニ報道シ一時該品ノ販賣ヲ中止スルモノトス

○廣島縣訓令甲第六号

廿一年一月十三日

郡區役所

明治十七年丙第百廿七号本縣達藥舖營業組合手續ハ藥種商營業者へモ適用ス但藥舖藥種商共ニ組合ヲ連結スルハ妨ケナシ

○辨官達

三年四月十五日

從前刑除ノ骸ヲ以テ刀劍ノ利鈍ヲ試來候右ハ殘酷ノ事ニ候間嚴禁取締可致其他人膽或ハ靈天蓋陰莖等密賣致ス哉ニ候處其効驗無之事ニ付是又嚴禁取締可致候事

第五項 阿片

○布告第貳拾壹號 十一年八月九日

明治三年八月布告生阿片取扱規則ヲ廢シ藥用阿片賣買並製造規則左ノ通相定候條此旨
布告候事

但施行ノ時日ハ追テ内務省ヨリ可相達事
藥用阿片賣買並製造規則

第一條 阿片ノ賣買及ヒ製造ハ藥用品ニ限リ此規則ニ依テ之ヲ許可ス

第二條 藥用阿片ハ内國產者クハ外國產ヲ論セス總テ内務省ニ於テ其品位ヲ定メテ之
ヲ買上ケ地方廳ヲシテ阿片御賣特許藥舖ニ之ヲ拂下ケシムヘシ

第三條 地方廳ヨリ拂下クル阿片ハ量目一匁ヲ以テ一器トシ每器衛生試驗所ノ印紙ヲ
貼附スルモノトス

第四條 地方廳ハ土地ノ廣狹位置ヲ度リ一管内相當ノ人員ヲ限リ藥舖ノ身元人物ヲ選
ミテ内務省ニ稟議シ鑑札ヲ受ケテ之ヲ本人ニ交付スヘシ

但廢業ノ者アル節ハ其鑑札ヲ内務省ニ返納スヘシ

第五條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ノ住所姓名ハ該管轄廳ヨリ管内ノ公私病院醫師藥舖一
般ニ報告スヘシ

但廢業ノ者アル節モ本文ニ準シ速ニ報告スヘシ

第六條 特許鑑札ヲ受タル藥舖ハ其店頭ニ特許 用阿片賣捌所ト大書シタル看板ヲ掲
ケ置クヘシ

十一年十一月二日內務
省布達甲廿七號ヲ以テ
十二年五月一日ヨリ施
行ス

二十年十月五日勅令五
十二號ヲ以テ本條及第
三條改正

十九年三月十二日內務
省令一號ヲ以テ自今稟
請ヲ要セス處分シテ後
報告セシム(但藥舖ノ
項ニ在リ)

廿年十月五日勅令五十
二號ヲ以テ本條改正

第七條 特許ヲ受タル藥舖ハ半年分賣捌ノ高ヲ豫算シ毎年兩度該地方廳ニ申立其拂下
ケテ請フヘシ但缺乏ノ節ハ臨時拂下ケテ請フコトヲ得

第八條 凡ソ醫師病院及ヒ一般藥舖等ニ於テ藥用阿片ヲ要スルハ其量目并ニ其住所
姓名及年月日 病院ハ其名及ヒ院
長若クハ副長ノ姓名ヲ記シ調印シタル證書ヲ以テ特許藥舖ニ就キ之ヲ購求
スヘシ特許藥舖ニ於テハ之ヲ賣渡スニ其量目一度ニ四拾匁ヲ越ヘカラス

但病院及醫師等ニ於テ便宜ニ依リ一般藥舖ニ就キ之ヲ購求スルト一般藥舖相互ニ
賣買スルトハ妨ケスト雖モ必ス本條ノ證書ヲ以テスヘシ且其量目一度ニ八匁ヲ超
ヘカラス

第九條 凡テ内外國人共醫師ノ處方箋ヲ持參シタル者ノ外ハ特許藥舖并ニ一般藥舖ニ
於テ一切之ヲ賣渡スヘカラス

第十條 特許藥舖ハ每半年分阿片拂受並ニ壹匁以上賣捌ノ高及ヒ買入ノ住所姓名並ニ
壹匁以下賣捌ノ總高等明細表正副二通ヲ造リ其管轄廳ニ差出スヘシ尤壹匁以下ノ分
ハ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

但管轄廳ハ其一通ヲ内務省ニ進達スヘシ
第十一條 醫師病院一般藥舖ニ於テハ每半年必シモ前條明細表ヲ差出スヲ要セスト雖
モ平常其明細ヲ簿記シ置キ臨時取調ノ用ニ供スヘシ

第十二條 藥用阿片ヲ製造セント欲スル者ハ罌粟ノ種類及ヒ培養採收製造ノ方法ヲ記
シ管轄廳ヲ經由シテ内務省ノ免許鑑札ヲ受クヘシ
第十三條 阿片製造人ハ其製造シタル阿片ノ量目ヲ記シ署名調印シタル願書ヲ以テ地

十九年三月十二日內務
省令一號ヲ以テ自今稟
請ヲ要セス處分シテ後
報告セシム(但藥舖ノ
項ニ在リ)

二十年十月五日勅令五十二號ヲ以テ但書改正

同上ヲ以テ本條ヲ改正シ二十一年一月一日ヨリ施行ス

方應ヲ經由シ内務省ノ買上ケテ願フヘシ右買上ケテ受クルノ外決シテ内外人民ニ販賣スルコトヲ許サズ

但内務省ニ於テ其品位薬用ニ適セサルモノトスルトキハ地方廳ヨリ其旨ヲ製造人ニ通知シ其阿片ハ其廳ニ預リ置クヘシ

第十四條 阿片買上ケ及ヒ拂下ケノ代價ハ歳ノ豊凶及ヒ外國一般ノ相場等ニ因テ高低アルヘシト雖モ其品位ニ應ジテ價格ヲ定ムルハ該薬主用ノ性分即チ「モルヒチ」ノ多少ニ因ルヘシ

第十五條 内務省ニ於テ買上ケ及ヒ拂下ケル阿片ノ「モルヒチ」含量ハ買上ケ品ハ百分中ニ九分以上拂下ケ品ハ百分中ニ十分以上ヲ含有スルモノトス

第十六條 此規則ニ違反スル者ハ其犯情ニ從ヒ阿片賣買若クハ製造ヲ禁シ其所有ノ阿片ヲ沒收シ百五十拾圓ヨリ五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

○内務省布達甲第廿七號 十一年十一月二日

本年八月太政官第貳拾壹號布告阿片賣買並製造規則之儀ハ來ル明治十二年五月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

○内務省告示第五號 二十年十月十九日

阿片製造人ヨリ買上ケヘキ内國產濕潤阿片並地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ケル粉未阿片價格來ル明治二十一年一月一日ヨリ左ノ通相定ム

買上價格

濕潤阿片百分中九以上十分未満モ百目ニ付金四圓五拾錢

但「モルヒチ」含量十分以上ノモノハ本項ノ割合ニ依リ其價額ヲ増ス

拂下價格

粉未阿片「モルヒチ」含量十分以上壹匁入壹瓶ニ付金拾錢

○内務省訓令第六號 廿二年三月八日 北海道廳府廳

地方廳ヨリ阿片卸シ賣特許藥舖ニ拂下ル薬用阿片受拂手續左ノ通相定ム

薬用阿片受拂手續

一地方廳ヨリ阿片ヲ拂下クルハ明治十一年ハ第二十一號布告第四條ニ據リ特許ヲ得タル薬舖ニ限ルモノトス但外國人薬舖ニハ開港開市場アル地方廳ニ於テ之ヲ拂下ク可シ

一地方廳ハ每半年分阿片拂下ノ高ヲ豫算シ一箇年兩度ニ内務省衛生局ヘ請求ス可シ但缺乏ノ節ハ臨時之ヲ請求スルモ妨ナシ

一地方廳ハ阿片ヲ内務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉換トシテ元受ヲナシ其保管及責任並ニ出納計算書ハ明治二十二年九月内務省訓令第三十六號内務省及所管廳物品出納規程ニ依ル

一北海道廳ハ阿片ヲ内務省ヨリ受入シタルトキハ保管ノ轉換トシテ元受ヲナシ其保管及責任ハ物品會計規則ニ依ル

二十三年一月四日内務省訓令一号ヲ以テ本項追加
廿三年二月二十日内務省訓令五号ヲ以テ本項追加

二十三年八月二十三日
 內務省訓令三十号ヲ以
 テ報告書式ハ該令ニ據
 ルヲ以テ著ス
 廿三年三月十九日內務
 省訓令十二号ヲ以テ本
 項中ヘシ該收入金ハ二
 ケ月毎ニ取納メ内務省
 會計局ヘ送納)ヲ削除
 ス

一地方廳ニ於テ阿片ヲ拂下クルトキハ其都度藥舖ノ住所氏名トモ記スルヲ要ス 瓶數代價
 月日等詳細簿記シ置キ每一箇年ニ由ル分攤形ノ報告書ヲ製シ之ニ特許藥舖ヨリ差出
 シタル明細表並外國人藥舖ヨリ差出シタル書面ヲ添ヘ會計年度經過後二箇月以内ニ
 進達ス可シ但阿片受拂報告ハ明治二十一年度ヨリ差出ス可キモノトス
 一地方廳ニ於テ内外國人藥舖ニ阿片ヲ拂下クルトキハ代價引換ニ現品ヲ拂渡スヘシ
 一特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ内務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加ヘ販賣スル
 モノトス

○廣島縣訓令乙第三九五号 二十二年四月十三日 廣島、深津外二郡三次外一郡、御開外一郡、郡區役所
 阿片賣買特許藥舖ニ拂下ル藥用阿片受拂手續左之通相定候條諸藥舖ニ指示スヘシ
 右訓令ス

藥用阿片受拂手續

- 一阿片拂下ヲ請求スルキハ請求書ニ代價ヲ添附シ第二部衛生課ヘ差出スヘシ
- 一阿片ヲ販賣スルキハ内務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加ヘ販賣スルモノトス
- 一阿片ヲ賣拂トキハ其都度購求者ノ住處氏名瓶數月日等詳細簿記シ置每一ケ年ニ依ル
 分攤形ノ明細表正副兩通ヲ製シ會計年度經過後一ケ月以内ニ進達スヘシ
 (明細表用紙野半紙)

明治何年度阿片受拂明細表

受入

受入年月日	モルヒ子含量中	瓶數
前年度ヨリ越高	十乃至十一	何
何年何月何日	ハ	何
計		何
		瓶數

賣拂

賣拂年月日	モルヒ子含量中	瓶數	購求者住所	氏名
何年何月何日	十乃至十一	何	何町郡市	何
何年何月何日	ハ	何	何	何
計		何		何
				人

受拂差引殘

阿片何瓶 明治何年何月何日現在高
 右相違無之候也

阿片賣買特許藥舖

明治 年 月 日 住所 氏名

第六項 賣藥并賣藥區域外

○ 布告第七號 十年一月二十日

賣藥規則別冊ノ通相定候條此旨布告候事

賣藥規則

第一章

十年十二月廿八日布告
 八十九號ヲ以テ本條改
 正
 十一年九月十九日布告
 二十七號ヲ以テ其管轄
 廳ノ下(ヨリ)經由シテ內
 務省)ノ八字ヲ削ル
 十五年十月廿七日布告
 五十二號ヲ以テ但書追
 加
 十一年九月十九日布告
 二十七號ヲ以テ(內務
 省)ノ三字ヲ(管轄廳)
 ニ改シ(管轄廳)ノ下(副廳)
 ノ二字ヲ加フ
 十九年三月十二日內務
 省令一號ヲ以テ自今稟
 請ヲ要セス處分シテ後
 報告セシム(但書病ノ
 項ニ在リ)
 十九年十一月二十五日
 勅令七十二號ニヨリ第
 四條中(第八條ニ記シ
 タル期限中)ノ十一字
 ヲ削ル
 十年十二月二十八日布
 告八十九號ヲ以テ第五

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ効能
 書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管
 轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
 但免許ヲ受ケタル者ニケ所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受
 クヘシ

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラヌ取扱上失
 誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ

第四條 藥味分量用法服量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ届出舊鑑札ヲ返納シト
 更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願
 書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ニ願出
 免許鑑札ヲ受クヘシ

第六條 賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

改正
 十一年九月十九日布告
 二十七號ヲ以テ第五條
 中免許鑑札ヲ受クノ下
 (管轄廳)ノ三字ヲ(內
 務省)ノ下(副廳)ノ二
 字ヲ加フ
 十九年十一月二十五日
 勅令七十二號ニヨリ第
 四條中(第八條ニ記シ
 タル期限中)ノ十一字
 ヲ削ル
 十年十二月二十八日布
 告八十九號ヲ以テ第五
 條及第九條消滅
 同上ニヨリ(免許期限
 內ト雖モ)ノ八字消滅
 十一年九月十九日布告
 二十七號ヲ以テ(右書)
 ヲ(有書)トシム

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメ
 ント欲スル片ハ其由ヲ管轄廳ニ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持ス
 ヘシ

第八條
 第九條

第十條 其製藥第三條ニ掲グル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗
 惡ニスル等ノイアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルヲアルヘシ

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラル、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サ
 ス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄
 廳ニ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ
 名前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳
 ニ鑑札名前書換ヲ請フヘシ

第十五條 賣藥營業者廢業シ若シクハ禁止セラレタル片ハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於
 テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并鑑札料ヲ上納スヘシ

十年十二月二十八日布
 告八十九號ヲ以テ本條
 改正
 十九年十一月二十五日
 勅令七十二號ニヨリ請
 賣者ノ下(免許期限中)
 ノ五字消滅
 十四年四月二十六日布
 告二十六號ヲ以テ賣藥

賣藥營業稅

右鑑札料

藥劑一方ニ付一ヶ年金貳圓
藥劑一方ニ付一枚金貳拾錢

營業者ノ下(及上請賣者)ノ五字并(賣藥請賣鑑札料)賣藥行商鑑札料ノ二項刪除
十五年十月七日市告
五十二号ヲ以テ但書追加

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ税金并鑑札料ヲ納ム

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ム

第十八條 税金ハ每年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限リ後半年分ハ翌年一月三十一日限リ鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分應業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没人シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケシテ私ニ藥味分量用法服用能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没人シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

十一年九月十九日市告
二十七号ヲ以テ(有害)ト改ム
十九年十一月二十五日
勅令七十二号ニヨリ貸
ス者ノ下(及ハ期限過
タル鑑札ヲ以テ自ラ行
商シ又ハ行商セシムル
者)ノ十六字消滅
十九年十一月二十五日
勅令七十二号ニヨリ借
受ケノ下(及ハ期限過
タル鑑札ヲ以テ)ノ十
二字消滅

十四年四月二十六日ニ
十六号ヲ以テ又ハ(營
業者ニシテ私ニ)ノ以
下二十八字ヲ追加ス

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及ヒ賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付貳拾

五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ル者アル時ハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其實トシテ其罰金ノ半高ヲ與フヘシ

○布告第拾六號 十年二月七日

本年一月第七號ヲ以テ賣藥規則布告候處該規則第三章罰則ノ儀ハ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨更ニ布告候事

但諸鑑札授受稅納其他手續等ノ儀ハ追テ內務省ヨリ可相達事

○達第三拾貳號 十四年四月二十六日

賣藥請賣鑑札并行商鑑札製作費ノ儀ハ自今明治十三年四月第十六號布告第三條第七項ノ内ヲ以テ支辨スヘシ此旨相達候事

刑法第二百二十三條第二
百四十四條第二十七條
參看醫師ノ項ニ在リ

○布告第四號 十一年二月十五日

船車賣藥牛馬賣買等税金納期左ノ通明治十一年ヨリ施行候條此旨布告候事

但從前布告達中此布告ニ矛盾スル條目ハ總テ廢止ト心得ヘシ

一船車賣藥牛馬賣買等ノ税金前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限其管轄廳へ可相納事

○廣島縣令甲第卅二號 十年三月六日

別紙之通內務省ヨリ達有之候ニ付渾テ賣藥ヲ受賣又ハ行商業致候者ハ願書式ニ基キ四月卅日迄願出鑑札可申受此旨相達候事

(別紙)

○內務省達乙第三十二號 十年三月十二日

本年一月太政官第七號賣藥規則公布相成候ニ付テハ左ノ手續書及書式雛形ニ照準取扱可申此旨相達候事

一昨明治八年七月以降當省ニ於テ下附候賣藥鑑札ハ追テ相達候迄免許發賣共當分書替爲願出ニ不及規則公布後相渡候鑑札同様相心得ヘシ

一前條ノ鑑札所持ノモノ營業免許年季ハ其鑑札ニ記載ノ月ヨリ起算スヘシ尤税金ノ額ハ本年分ヨリ徵收スヘキニ付昨九年マテノ分ハ納メシムルニ及ハス

一營業鑑札請賣鑑札ハ所持人ノ居家ニ限リ營業ノ權アルモノニ付別戶支店等ニ於テハ

十年七月十三日內務省達乙六十五号ヲ以テ本

項追

十年七月十三日內務省達乙六十五号ヲ以テ本項改正

同上ヲ以テ本項改正

十一年十一月八日內務省達乙七十號ヲ以テ賣藥請賣行商トモ明細簿差山スニ及ハサル旨達

第六項

賣藥并賣藥區域外

出賣 賣藥營業

許賣 賣藥請賣

別ニ其居住人ニ於テ鑑札ヲ所持スルニ非サレハ營業スルヲ得ヘカラス
一前條營業鑑札所持ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商業致シ居候分來ル四月三十日マテニ悉皆爲願出鑑札交附取計フヘシ
一明治八年七月以降本年一月規則發行前ノ鑑札所持ノ者本年六月マテニ廢業届出候分ハ特別ノ詮議ヲ以本年ニ限リ前半年期ノ税金ハ免除スヘシ
一賣藥營業者并ニ請賣者免許看版ハ左式ノ通製セシムヘシ

壹三尺

寸法同上

一税金並ニ諸鑑札料納附ノ節ハ上納證ヲ添ユルノミニシテ勘定帳ハ壹ケ年取束テ毎年八月三十一日限リ該地差立大藏省租稅局へ進達スヘシ
但會計年度ノ都合モ有之本年一月ヨリ六月マテノ分ハ別牒ニ製シ八月三十一日限リ該地差立同局へ進達スヘシ
一行商鑑札ハ各管廳ニ於テ雛形ノ通之ヲ製シ願人ニ下附スヘシ凡行商スル藥劑ハ其方名ヲ一々鑑札ニ記載スヘシ
但一人ニシテ數人ノ藥劑ヲ行商スル時ハ方數ニ拘ハラズ營業者異ナル毎ニ鑑札ヲ別製シテ之ヲ渡スヘシ
一行商鑑札ヲ下附シタル分ハ其都度明細簿ニ登記シ置キ毎半年分宛別ニ一本ヲ調製シ一月七月ノ兩度內務省ニ開申スヘシ

セラル
十四年四月三十日內務
省省令第二十五号ヲ以テ
行商標札製作費ノ一項
ヲ删除ス
十年七月十三日內務省
達乙七十五号ヲ以テ第
十項改正
會計法規ノ改正ニヨリ
同上雜形删除ス

一 賣藥營業稅並諸鑑札料上納勘定帳雜形
賣藥營業願書式

明治八年當省乙第九十八號達雜形ニ照準スヘシ
○內務省達乙第九十八號 府縣 七月五日

今般當省火災ニ付テハ兼テ文部省宛差出有之候書類之内醫師履歷明細書藥舖履歷并
賣藥檢査ニ係ル願同等悉皆燒亡候條左ノ雜形ニ照シ醫師藥舖ハ現在開業ノ者ノミ取
調賣藥ハ昨七年以來文部省免許鑑札ヲ所持スルモノ、外既ニ同省ハ檢査願出置候分
并未夕願出ザル分共取調總テ當省ハ差出候様可取計此旨相達候事

但賣藥之儀既ニ出願之分ハ檢査方是迄遷延相成候向モ有之願人共ニ於テ迷惑可及
ニ付一管内取纏ノヲ不待願出次第該府縣廳ニ於テ添書逐次可差出候事

賣藥願書雜形摘錄

一方名

壹劑ノ量

何藥量目何程

何藥全

何藥全

以上發味調合或ハ丸散トシ幾帖ニ分チ或ハ幾粒トナシ幾粒ヲ壹包トナシ壹度或
ハ一日ノ用量大人小兒ノ區別等其用法詳細

一 主治功能詳細

右ハ從來發賣渡世仕來リ候或ハ此度新ニ調製發賣仕度奉存候間御檢査ノ上御差支モ

十一年十一月八日內務
省達乙七十号ヲ以テ鑑
札雜形改正

無御座候ハ、免許鑑札御下渡被下度依而製劑相添此段奉願候也

年號月日

府縣 華士族 或ハ平民

大小區村名番號

本人

姓名印

醫務取締或ハ區戶長

姓名印

府縣長官姓名宛

賣藥營業鑑札雜形

賣藥改正願書式用紙兼邊紙

賣藥改正願

府縣 大小區國郡村番地

營業人族籍氏

名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

右者何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々之廉左之通改正仕度御差支無之
候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也

一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年月日

類人氏名印
區長ハ醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣鑑札願書式用紙同上

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同 一同

右營業人

縣大小區國郡村番地 族籍氏名

但營業者異ナレハ縱令一方タリモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之

ヲ區別シテ書記スヘシ

右之賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御免許之御指令寫并約定書相添此段奉願

候也

年月日

縣大小區國郡村番地 請賣願人 族籍氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥請賣約定書

一方名 一同 一同 一同 一同

右者何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整ヒ候ニ付請賣者ニ於テ

十九年十一月二十五日
勅令七十二号ヲ以テ管
藥局計開限處止セラレ
ルニ因リ舊式ヲ削除ス

請賣鑑札ヲ願受ケ營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免
許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及ヒ御達ノ趣旨ヲ確守シ不正之所業致ス間敷候依
テ約定書如件

年月日

縣大小區國郡村番地 賣藥營業人 族籍氏名印

同 賣藥請賣人 族籍氏名印

賣藥營業鑑札滿期書替願書式用紙美濃紙

賣藥營業鑑札並請賣鑑札遺失之節書替願書式用紙同上

賣藥營業鑑札ハ賣藥請賣鑑札遺失ニ付御書替願

縣大小區國郡村番地 賣藥營業人 族籍氏名

一方名

賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘシ

縣大小區國郡村番地 賣藥營業人 族籍氏名

一方名

右請賣人

同 族籍氏名

右者何年月

概略ヲ記スヘシ 御下渡被下候 賣藥營業鑑札何月日何々ノ事故ニテ遺失仕候間更ニ

御下渡被下度此段奉願候也

年月日

賣藥營業人 氏名印

或ハ請買人 氏名印

戶長ハ醫務取締 氏名印

管轄廳長官氏名宛

賣藥營業鑑札讓渡願書式用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

府大小區郡村町番地

營業人 族籍 氏名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アル時ハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右者何年月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般府族籍何某ハ示談之上讓渡申度依テ所持之鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

年月日

府大小區郡村町番地

賣藥鑑札 主族籍 氏名印

同

右讓受人 族籍 氏名印

鑑札主區長式 醫務取締氏名印
所住ノ戶長ハ醫務取締氏名印
讓受人區長式 醫務取締氏名印
所住ノ戶長ハ醫務取締氏名印

管轄廳長官氏名宛但讓受人ノ管轄廳ニ出シ鑑札主ノ管轄廳ヘハ其旨ヲ届出ヘシ

○内務省乙第七十號達十一年十一月八日 府縣

本年九月太政官第貳拾七號ヲ以テ賣藥規則改正公布相成候ニ付テハ左ノ手續並雛形ニ照準シ取扱可申此旨相達候事

賣藥取扱手續

- 一 鑑札料紙ハ別紙雛形ノ通相製シ當省ヨリ相渡スヘシ
- 一 右料紙ハ凡積ヲ以テ毎年半期分宛一月七月兩度ニ受取方當省ヘ申立ヘシ
- 一 管應ニ於テ鑑札ニ記スヘキ方名姓名番號等雛形ノ通記入押印之上下渡スヘシ
- 一 一家畜牛馬等ニ用ユル賣藥鑑札ハ赤輪廓之分ヲ用ユヘシ
- 一 免許期限内ニ於テ鑑札書換ヲ要スル分ハ其事由並ニ書換タル年月日ヲ鑑札裏面ニ記入下附スヘシ

一 賣藥廢業鑑札是迄當省ヘ返納致來候處自今其義ニ及ハス管應ニ於テ消却スヘシ

鑑札雛形

十四年九月八日乙四十
三号ヲ以テ(賣藥請買
云々)ノ一項ヲ刪ス

唐草 (印ハ朱書)

契合之印

番號
何縣何大區何小區何國何郡
何村何番地

方名
何之誰

右免許候事

明治
月 日 年

內務省

省內務印

裏面

府縣廳

府縣印

○廣島縣甲第四百拾號 十七年十月四日
賣藥營業ヲ爲サントスルモノハ自今左ノ書式ニ準據シ願出ヘシ
賣藥檢査願用紙半紙三通

第六項 賣藥并賣藥區域外

一方名

壹劑量 何藥^註 何藥^註 何藥^註

以上幾味調合或ハ丸散トシ幾帖ニ分チ又ハ幾粒トシ幾粒ヲ一包トシ一度或ハ一日ノ
用量大人小兒ノ區別等其用法詳細

一主治功能詳細
右ハ此度新ニ調製發賣仕度存候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被下度依テ製劑相副此段
相候他

縣國郡區町村名屋敷番號

族籍

年月日

氏名印

衛生委員 氏名印

戶長 氏名印

縣令宛

右布達候事

○廣島縣令甲第百二十壹號 二十三年十二月十三日

自今賣藥ニ關スル願書ハ正副貳通差出スヘシ

○廣島縣令甲第九十三号 二十一年八月三日

明治十七年^六甲第六十五号本縣布達地方稅中營業稅雜種稅營業鑑札ノ内賣藥請賣及賣
藥行商鑑札書式自今左ノ通相定ム
但明治十七年^六甲第六十五号本縣布達備考ノ末項ハ删除ス
賣藥請賣鑑札書式 (表中。印ハ朱)

第 号	賣藥請賣許可之證	一方名	一方名	一方名
	一方名	一方名	一方名	一方名
	一方名	一方名	一方名	一方名
右請賣營業開屆候事				
明治 年 月 日				
郡 區 役 所 印				

第六項

賣藥并賣藥區域外

<p>賣藥營業者自ラ行商ノ分</p> <p>賣藥行商許可之證</p> <p>何廳何府縣郡區町村族籍 賣藥營業人 氏 名</p> <p>一方名 一方名 一方名 一方名</p> <p>右行商開屆候事</p>	<p>賣藥請賣者自ラ行商ノ分</p> <p>賣藥行商許可之證</p> <p>何廳何府縣郡區町村族籍 賣藥營業人 氏 名</p> <p>一方名 一方名 一方名 一方名</p> <p>右行商開屆候事</p>
<p>賣藥營業者賣子ヲ派出シ行商セシムル分</p> <p>賣藥行商許可之證</p> <p>何廳府縣郡區町村族籍 賣藥營業人 氏 名 賣子 氏 名</p> <p>一方名 一方名 一方名 一方名</p> <p>右行商開屆候事</p>	<p>賣藥請賣者賣子ヲ派出シ行商セシムル分</p> <p>賣藥行商許可之證</p> <p>何廳府縣郡區町村族籍 賣藥營業人 氏 名 賣藥請賣營業人 氏 名 賣子 氏 名</p> <p>一方名 一方名 一方名 一方名</p> <p>右行商開屆候事</p>

<p>裏</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1875 963 1959 1276">請 賣 營 業 人</td> <td data-bbox="1959 1008 2015 1142">之 證</td> <td data-bbox="2015 1008 2072 1209">賣 認 可</td> <td data-bbox="2072 963 2156 1209">賣 藥 請</td> <td data-bbox="2156 963 2240 1276">賣 藥 營 業 人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>族 籍</td> <td></td> <td>族 籍</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>氏 名</td> <td></td> <td>氏 名</td> <td></td> </tr> </table>		請 賣 營 業 人	之 證	賣 認 可	賣 藥 請	賣 藥 營 業 人							族 籍		族 籍			氏 名		氏 名	
請 賣 營 業 人	之 證	賣 認 可	賣 藥 請	賣 藥 營 業 人																	
	族 籍		族 籍																		
	氏 名		氏 名																		

年月日	烙印
郡 區	
役 所	印 區
番 号	

○廣島縣令甲第三百三十五號 二十三年十二月二十八日

賣藥營業請賣及行商人心得書左之通相定ノ來ル明治二十三年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年ニ縣甲第三十一號全十九年ニ中第十五號全年甲第六十九號本縣布達
全二十年ニ廣島縣令甲第五十九號ハ本年限リ廢止ス

賣藥營業請賣及行商人心得書

第一條 賣藥營業請賣又ハ行商ヲ爲スモノハ賣藥規則及賣藥印紙稅規則ヲ遵守スルハ
勿論尙ホ左ノ各條ニ從フヘシ

但外國輸入ノ賣藥ヲ販賣セントスルモノモ亦同シ

第二條 賣藥營業者管内他郡市ニ轉任又ハ寄留營業スルルハ其轉任又ハ寄留スル郡市

二十三年二月縣令甲第
四十一号ヲ以テ但書追
加

町村番邸ヲ詳記シ鑑札裏書ヲ願出ヘシ一郡市内甲町村ヨリ乙町村ニ轉任又ハ寄留營
業スルルハ鑑札番號許可年月日方名及ヒ其移住スル町村番邸ヲ詳記シ願出ヘシ

第三條 他府縣下ノ賣藥營業者管内ニ轉任又ハ寄留營業スルルハ其府縣ニ於テ許可
セラレタル藥味分量製法用法功能及ヒ其轉任又ハ寄留スル郡市町村番邸ヲ詳記シ鑑
札書換ヲ願出ヘシ

第四條 當管内ノ賣藥營業者他府縣ニ轉任又ハ寄留營業スルルハ其移住スル府縣郡市
町村番邸ヲ詳記シ鑑札寫相添届出ヘシ

第五條 賣藥營業者改氏名及ヒ代換又ハ免許鑑札ヲ他人ニ讓渡スカ若クハ方名藥味分
量製法用法功能等ヲ改正スルルハ受賣及ヒ行商者住所氏名ヲ記載シ鑑札書換ヲ願出
ヘシ

但本文ノ場合ニ於テハ總テ方名藥味分量製法用法功能ヲ願書ニ記載シ若シ受賣及
ヒ行商者ナキハ其旨併記スヘシ

第六條 賣藥營業者廢業スルカ又ハ禁停止ノ處分ヲ受テ鑑札ヲ返納スルルハ前條ニ準
シ受賣及ヒ行商者ノ住處氏名ヲ記載シ届出ヘシ

第七條 賣藥營業者ハ第一號ヨリ第三號ニ至ル式ニ倣ヒ帖簿ヲ調製シテ常ニ怠リナク
記載スヘシ

第八條 賣藥受賣及ヒ行商者ハ第四號式賣藥買入帖ヲ調製シ買入ノ都度記入スヘシ

第九條 賣藥營業者ハ製造原品買入通帖ヲ調製シ買入ノ都度之ヲ携帶記載セシムヘシ

第十條 製造原品買入先若シ遠隔ノ地ニシテ通帖ヲ使用シ能ハサルルハ仕切書又ハ送

二十四年十一月縣令甲
第九十四号ニテ追加

狀等ヲ取り置クヘシ

第十一條 印紙買入通帖ニハ買入ノ都度其種類毎ニ賣捌人ノ割印ヲ受ケ置クヘシ

第十二條 賣藥現品諸帖簿製造場及ヒ倉庫等ハ主任官隨時臨檢スルコトアルヘシ
但主任官ハ檢査ノ証票ヲ携帶ス

第十三條 營業者不在中ト雖ヒ現品及ヒ帖簿ハ主任官之ヲ檢査スルコトアルヘキニ付差支ナク檢閱ニ供スヘシ

第十四條 賣藥營業ニ關スル諸帖簿ハ翌期ヨリ滿三ケ年之ヲ保存スヘシ

第十五條 賣藥營業人ハ其製造個數及ヒ印紙貼用高ヲ取調別紙第五号様式ニ倣ヒ前半
年分ハ七月三日期限、後半年分ハ一月三日期限、所轄間稅分署へ届出ツヘシ

(第一號)

賣藥製造帳

賣藥印紙買入通帳

賣藥印紙買入通帖

(印ハ朱書)

月	日	種	類	枚	數	金	額	賣	捌	人	住	所	氏	名
越	高	何	厘	何	枚	何	十	錢						
一	月	一	日	五	厘	千	何	圓		市	村	番	某	〇
月	計													

備考

一 交換受ノ印紙ハ欄内ニ朱記スヘシ但シ月計ハ外書ニスヘシ
 一 該帳ハ買入ノ都度務帶シ心得書第七條ニ據リ賣捌人ノ調印及割印ヲ受クヘシ

賣藥賣渡帳

賣藥賣渡帳

月 日	方 名	個 數	一 個 定 價	代 金	買受人資格住所氏名
一月一日	奇妙丹	十個	五錢	廿五錢	請賣人
一月二日	寶丹	三十個	十錢	二圓十錢	行商人
一月二日	仙人丹	五十個	三錢	壹圓	小賣
月 計					日締高

備考

一 小賣日締高方名毎ニ記載スヘシ
 一 交換拂出ハ欄内ニ朱記シ月計ニ外書スヘシ

賣藥買入帳

賣藥買入帳

月	日	方名	個數	一個定價	代金	賣渡人住所氏名
越	高	一角湯	五個	二錢	五錢	何國何郡市町村何番地 何ノ誰
一	月三日	千金丹	十個	三錢	二十錢	
月	計					

備考

一 交換又ハ戻入ニ係ルモノハ欄内ニ朱記シ月計ニ外書スヘシ

(第五号書式) 用紙半紙

明治何年(自一月)至(自七月)賣藥製造個數并印紙貼用高御届

種目	月別	何月												計
		何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	何月	
個數	何個													
印紙	何圓何拾錢													

右之通候也

年月日

何問稅分署宛

住所

氏

名印

○内務省訓令第三二號 十九年三月十九日 府縣(沖繩縣ヲ除ク)
賣藥禁許ノ儀自今別紙檢査心得ニ據リ取扱ヘシ
但本文ニ牴觸スル從前ノ達訓示指令ハ取消ス
右訓令ス

賣藥檢査心得

〔一〕毒藥及劇藥ニ屬スル藥品ハ之ヲ許可セズ

○毒藥ニ屬スルモノ

燐及其製劑

カンタリヂン

クラーレンウーラ

揮發苦扁桃油及揮發ラウール油

巴豆油

有毒植物原基殊ニ植物鹽基及ヒ其鹽類

物拉篤里涅

ブルンチ

コニーチ

コルシ、ニーチ

亞篤魯必涅

實斐答林

古埤乙涅

エメチチ

アコニチチ

莫兒比涅

亞刺莫兒比涅

ヒヨスキアミン

必魯加兒必涅

比蘇新知個密涅

斯篤加兒必涅

砒石及其化合物并ニ製劑

砒酸及其鹽類

亞砒酸白砒石及其鹽類

法列兒水

沃度化砒汞液アンソウフ

沃度化砒素

硫化砒素雌黃

礬石

猛劇汞劑

赤色沃度化汞

白降汞

昇汞

黃色沃度化汞

硝酸汞

赤色酸化汞赤降汞

青酸及其化合物并製劑

稀青酸

青化加留藏化加里

青化亞鉛青酸亞鉛

加刺拔兒豆越幾斯篤拉屈篤

○劇藥ニ属スルモノ

印度大麻葉及其製劑

別刺敦那莖并ニ其製劑

番木籠子及其製劑

巴豆及其製劑

麥奴及其製劑

剝度比兒林

〜レボル根及其製劑

吐根及其製劑

毒蒿苗及其製劑

藤黃

實斐答利私葉及其製劑

硫酸粗製硫酸發烟硫酸

強安母尼亞水

嘉度密烏謨化合物

硫酸嘉度密烏謨

沃化嘉度密烏謨

加刺拔兒豆

苛性加里腐蝕劑加里滷液

甘汞輕粉

苛性那篤倫腐蝕劑那篤倫滷液曹達

沃度及其製劑

沃度仿謨

沃度鹽類

沃化加留謨沃度加里

沃化那篤留謨

沃化鉄

雙鸞菊根馬頭及ヒ其製劑

苦扁桃水及ヒ老兒結兒利斯水

藜蘆根及ヒ其製劑

葯刺巴脂葯刺巴根及ヒ其製劑

蔓陀羅華子及ヒ蔓陀羅華葉并ニ其製劑

獨答利班貓及ヒ其製劑

刺克丟加留謨テリタキス

揮發芥子油及ヒ其製劑

水銀及ヒ其製劑粉丸汞灰散等

安知母紐謨化合物

吐酒石

黑硫化安知母紐謨

金硫黃

格魯兒化安知母紐謨

酸化安知母紐謨

結列阿曹篤

貌羅謨(臭素)及ヒ其製劑

貌羅謨化鹽類

貌羅謨化加留謨臭素化加里

貌謨維謨化

那篤留謨

貌羅謨化樟腦臭化片腦

格羅謨酸及ヒ格羅謨酸鹽類

格羅謨酸加留謨

格兒矢屈謨子及ヒ根其製劑

格魯聖篤實及ヒ其製劑

呀囉仿謨及ヒ其製劑

コロメイン

抱水格魯刺兒

抱水ブチールコロラール

阿片及ヒ其製劑ドウエル氏散ラウダニユーム
テリアカ無劑等之ニ属ス

亞鉛化合物

格魯兒化亞鉛

硫酸亞鉛

顯草酸亞鉛

醋酸亞鉛

酸化亞鉛

硫石炭酸亞鉛

乳酸亞鉛

薩昆那葉及ヒ其製劑

薩昆那油

鉛化合物并ニ其製劑

醋酸鉛

炭酸鉛

次醋酸鉛液

鉛醋酸化鉛密陀僧

過酸化鉛丹

珊篤寧

魯別里亞草及ヒ其製劑

銅化合物及ヒ其製劑

硫酸銅

次醋酸銅綠青

酸化銅

銅 礬神礆石

硝酸粗製硝酸發烟硝酸

硫酸銅安母紐謨銅礬礬

王水

銀化合物并其製劑

結晶硝酸銀

熔製硝酸銀地獄石

硝酸銀加硝石

古紐謨脚^{矢鳩}及ヒ其製劑

鹽酸粗製鹽酸

金化合物

格魯兒化金

格魯兒化金那篤留謨

拔留謨化合物

格魯兒化拔留謨

硝酸拔留謨

奇性重土

蒼鉛化合物

次硝酸蒼鉛^{硝酸ビスミット}

炭酸蒼鉛

顯草酸蒼鉛

歐仿爾繆謨

非沃斯葉及ヒ子并ニ其製劑

石炭酸粗製石炭酸

知母兒

亞硝酸アミール

格魯兒化炭素格魯兒化エチリ^{和蘭液}

ヤボラ^ン子葉及ヒ其製劑

トキシコ^デンドロン^葉及ヒ其製劑

黃色及ヒ赤色血滲鹽

格魯兒化炭素格魯兒化エチリ^{和蘭液}

トキシコ^デンドロン^葉及ヒ其製劑

咖啡涅及其鹽類

スカンモニア根及_レ脂并ニ其製劑

蜀羊泉及_レ其製劑

鹽粟殼及_レ其製劑

剝度比爾林

揮發芥子油

備答百兒加液

〔二〕和漢藥中有毒ノ稱アル藥品ニシテ其毒藥タルヲ證明シタルモノ并ニ其性効不明ナルモノハ總テ之ヲ許可セズ例之ハ

鈎吻 牽牛子 烏頭 附子

萆薢 大戟 澤漆 甘遂

續隨子 天南星 檉木 莽卯

雲質 靈砂 斑蝥 全蝎

瓜蒂 生々乳 雄黃 雌黃

芫花 輕粉

〔三〕前各項ノ藥品中左ノ藥品ニシテ其用量左ノ制限ニ超ヘサルトキハ之ヲ許可ス内用ニ許可スベキモノ

吐根及_レ其製劑 吐根 〇・〇六〔一八〕製劑

之ニ準ス已下倣之

沃度化加留謨及_レ沃度化那篤留謨 一・〇

〔十五八〕

加糖沃度鉄 〇・三〔四八半〕

葯刺巴脂及_レ根 根 〇・三〔四八半〕 脂 〇・一

〔一八半〕

金硫黃 〇・二〔二八半〕

貌羅謨化加留謨及_レ貌羅謨化那篤留謨

一・五〔二十二八〕

珊瑚寧 〇・一〔一八半〕

次硝酸蒼鉍 〇・五〔七八半〕

大戟 一分

續隨子 一分

牽牛子 一分

安知歇貌林 〇・三〔四八半〕

安知必林 一・〇〔十五八〕

右共ニ大人一日ノ量トス但十五年已下滿七年迄ハ本量ノ半ハ滿七年已下滿四年迄ハ三分一滿四年已下滿二年迄ハ六分一滿二年已下ハ十分一トス外用ニノミ許可スベキモノ

沃度及_レ其製劑外用百分一已下
浴湯三千分一已下

沃度仿謨膏 二十分一以下

結列阿曹篤膏 二十分一已下

〔使藥九十九分沃度一分ノ比例
已下ナルモノヲ云フ已下倣之〕

硫酸亞鉛點眼用 二百分一已下

酸化亞鉛膏分量ニ拘ハラズ

醋酸鉛點眼用 二百分一已下

炭酸鉛膏

過酸化鉛 分量ニ拘ハラズ

酸化鉛

次醋酸銅綠膏 膏藥分量ニ拘ハラズ

石炭酸 石鹼百分ノ二已下
膏藥三十分一已下

知母兒 膏二十分一已下

〔四〕毒性劇性ノ成分ヲ含有シ若タハ其疑アル成分不明ノ天然物(動物植物礦物)ハ之ヲ許可セズ

〔五〕數品ノ配伍ニ由テ有害ノ物質ヲ生スルノ恐レアルモノ并ニ分解シ又ハ腐敗シ易キモノハ之ヲ許可セズ

例之ハ次硝酸蒼鉛ニ酸類ヲ配伍シ沃度化鹽ニ過格魯兒化鎂ヲ配伍スルノ類

〔六〕毒劇藥ノ外ト雖有力藥品ノ内用劑ハ尋常醫用一回ノ中等量ヲ以テ一日量ト爲ス者ニ非サレハ之ヲ許可セズ其許可スヘキ者例ヘハ

撒里矢兒酸 〇、五(七氏半)

單寧酸 鞣酸 〇、三(四氏半)

撒里矢兒酸那爲留母 二、〇(三十八)

依的兒 二十滴 蘆薈 〇、五(七氏半)

安母尼亞護膜 ゴムア
モニアキ 一、〇(十五氏)

炭酸安母紐護 〇、〇(七氏半)

安母亞尼水 十滴 〇、二(三氏)

海葱 〇、二(三氏)

樟腦 樟腦
片腦 〇、二(三氏)

葛私篤留母 〇、五(七氏半)

規尼涅鹽類 〇、五(七氏半)

蘆薈越幾斯 〇、二(五四氏)

セメントーナ 一、五(二十二氏)

還元鎂鎂粉 〇、二(五四氏)

格魯兒化鎂液 五滴 〇、一(一氏半)

硫酸鎂 〇、三(四半)

炭酸乳酸枸橼酸等ノ鉄鹽 一、〇(十五氏)

旋那葉 二、〇(三十氏) 下劑トシテ

大黃 阿魏 〇、五(七氏半)

麝香 〇、二(三)

榮實 一分

ゴア粉并クリサロビン 一分ニ使藥百分以
上ノモノ但外用

右共ニ大人一日ノ量トス但十五年以下ハ三項ノ年齡區別ニ據リ斟酌スヘシ

〔七〕銅箔錫箔眞鍮箔鉛箔丹ヲ衣トシタル丸藥ハ之ヲ許可セズ

〔八〕薰烟劑吸入劑蒸氣浴等ノ如キ尋常ノ内用法外用法塗敷點眼浴湯ニ由ラサルモノハ之ヲ許可セズ

〔九〕用法ヲ誤ルニ由テ危害ヲ招クノ恐レアルモノハ之ヲ許可セズ例ヘハ

劇藥并有力藥品ヲ配伍セルモノニシテ其劇藥有力藥ノ含量誤テ一貼若クハ一瓶ヲ頓服スレハ危害ヲ招クノ恐レアルモノ

〔十〕前諸項ノ制限ニ觸レサルモ其効能用法用量等ニ於テ不都合ノ廉アリト認ムルモノハ再調ヲ命スヘシ

〔十一〕專ラ滋養ニ供スル品類或ハ夏日飲料或ハ化粧水齒磨粉等ノ如キ間々一二功能ヲ附シタルモノアルモ素ヨリ治療ヲ主トスルモノニ非ラサルヲ以テ賣藥規則外トナスベシ

〔十二〕海水或ハ鑛泉ヲ採酌運搬シテ病者ヲ浴セシムルハ賣藥規則外タルベシト雖モ鑛泉中ノ固形物俗間湯ノ花ト唱フルノ類或ハ幾分ノ鑛泉ヲ混合シ或ハ藥物ヲ加フルモノハ既ニ全ク其原泉ト性質効用ヲ異ニシ人造ニ歸スルヲ以テ別ニ湯名ヲ附シ規則ニ從テ鑑札ヲ受ケシム

〔十三〕電氣浴ノ如キハ專ラ醫師ノ施治ニ屬スルヲ以テ藥湯ニ準シ許可スルノ限ニアラス

○内務大藏兩省達乙第拾貳號 十二年二月廿六日

從來酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ハ賣藥免計鑑札下付致來候向モ有之候處右ハ醫藥ニ供スル別紙記載ノ品類ヲ除クノ外酒類ヲ和シ飲料ニ供スルモノハ假令藥品ヲ配伍スト雖モ總テ酒類稅則ニ據リ課稅可致就テハ是迄下付致居候鑑札ハ返納致サセ可申此旨相達候事

但鑑札返納ノ上ハ其品目内務大藏兩省ニ届出ツ可シ

精劑

酒精

ホフマン氏鎮痛液

甘硝石精

礮砂加阿魏精

アチース精

芳香礮砂精

カヤフーテテ精

コロ、フアルム精

枸櫞皮精

蟻精

複方杜松子精

複方ライヘンデル精

再留酒精

甘鹽精

礮砂精

複方白芷精

芳香精

複方アルモラシア精

龍腦精

桂皮精

山萸桑精

杜松子精

ライヘンデル精

檸檬精

複方マスチック精
 椒性薄荷精
 ミールシア精
 迷迭香精
 セルヒルリ精
 双鸞菊精
 失鳩答精
 菲沃斯精
 番木鱉精
 コロシクム實精
 丁幾
 亞爾薛丁幾
 芳香酸丁幾
 蘆薈丁幾
 苦味丁幾
 アルニカ丁幾
 阿魏丁幾
 橙皮丁幾
 ハルサム丁幾

英國縮葉薄荷精
 薄荷精
 肉豆蔻精
 石鹼精
 芥子精
 菘菘精
 實菱答利精
 高昔精
 アルニカ花精
 橙皮精
 複方亞爾薛丁幾
 雙鸞菊丁幾
 複方蘆薈丁幾(蘆薈沒藥丁幾)
 ポーメ氏苦味丁幾
 芳香丁幾
 亞的兒製阿魏丁幾
 新鮮橙皮丁幾
 菘菘丁幾

安息香丁幾
 ビニツコ丁幾
 コロンボ丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾
 亞的兒製芫菁丁幾
 益智丁幾
 カスカリルラ丁幾
 カナダ産カストル丁幾
 阿仙藥丁幾
 赤色機那丁幾
 キノイシチ丁幾
 複方コロロホルム丁幾
 桂皮丁幾
 コルレクム丁幾
 失鳩答丁幾
 畢澄茄丁幾(キユヘバ丁幾)
 石鹼丁幾
 ジキタリス丁幾
 續隨子丁幾

複方安息香丁幾
 泥菴丁幾
 複方龍腦丁幾
 芫菁丁幾
 蕃椒丁幾
 複方益智丁幾
 亞的兒製カストル丁幾
 シピリア産カストル丁幾
 藕色機那丁幾
 複方機那丁幾
 キラタ丁幾
 黃色機那丁幾
 コーシチール丁幾
 コロシント丁幾
 サフラン丁幾
 梔梔丁幾
 複方アルモラシヤ丁幾
 亞的兒製ジキタリス丁幾
 醋酸鉄丁幾

鹽化鉄丁幾
 林檎酸鉄丁幾
 ゲンチアナ丁幾
 癒瘡木丁幾
 綠黎盧丁幾
 忽布丁幾
 ヨジウム丁幾
 脫色ヨシウム丁幾
 ヤーラツバ丁幾
 キノ丁幾
 ラリシス丁幾
 檸檬^{レモン}丁幾
 亞的兒製ロベリア丁幾
 肉豆蔻丁幾
 麝香丁幾
 揮發鹽化鏡丁幾(ベスチエハラ氏神經丁幾)
 阿片丁幾
 舍電華謨氏阿片丁幾
 脫臭阿片丁幾
 亞的兒製鹽化鉄丁幾
 沒食子丁幾
 複方ゲンチアナ丁幾
 揮發性癒瘡木丁幾(礮砂加癒瘡木丁幾)
 ペレニー丁幾
 エオス丁幾
 複方ヨシウム丁幾
 吐根丁幾
 複方ヤーラツバ丁幾
 ラタニア丁幾
 複方ラーヘンデル(丁幾ラーヘンデル丁幾)
 ロベリア丁幾
 リユアリニア丁幾
 亞的兒製肉豆蔻丁幾
 沒藥丁幾
 番木鱈丁幾
 安息香阿片丁幾
 單阿片丁幾
 礮砂精加阿片丁幾

地榆丁幾
 ビレトリウム丁幾
 規尼涅丁幾
 ヤーラツバ脂丁幾
 水製大黃丁幾
 大黃加旃那丁幾
 麒麟血丁幾
 加里加海葱丁幾
 遠志丁幾
 セルペンタリア丁幾
 蔓陀羅華丁幾
 琥珀丁幾
 チュヤ丁幾
 トキシコデンドリ丁幾
 亞的兒製纈草丁幾
 アアニルヲ丁幾
 強生姜丁幾
 亞的兒製失鳩答丁幾
 亞的兒製龍腦丁幾
 複方松芽丁幾
 括失亞丁幾
 礮砂精加規尼涅丁幾
 大黃丁幾
 酒製大黃丁幾
 サピナ丁幾
 海葱丁幾
 麥奴丁幾
 旃那丁幾
 複方スピランナス丁幾
 亞的兒製馬錢子丁幾
 シュンブル丁幾
 トリュタナ丁幾
 纈草丁幾
 礮砂精加纈草丁幾
 生姜丁幾
 亞的兒製葶藶丁幾
 亞的兒製非沃斯丁幾
 白黎盧丁幾

酒劑

- 蘆薈酒
- 芳香酒
- 龍腦酒
- コロンナム酒
- コロンナム實酒
- 鏡酒
- 吐根酒
- 大黃酒
- アノチモニー酒
- 酒石酸加里鏡酒
- 苦味酒
- 橙皮酒
- 機那酒
- コロンナム根酒
- 麥奴酒
- 枸橼酸鏡酒(枸橼酸アンモニア鏡酒)
- ヘブシキ酒
- 海葱酒
- 煙草酒

○内務大藏兩省達乙第三拾三號 府縣 十二年八月廿一日

本年二月乙第拾貳號ヲ以テ酒類ニ藥品ヲ配伍シ販賣候者ノ取扱方相達置候處右達書ニ掲載セル品目外ノモノニシテ酒類ノ和スト雖モ全ク藥性ヲ浸出スルニ止マルモノハ酒類稅則ノ限ニアラス其酒類ニ依リ製藥又ハ賣藥ノ免許可爲受儀ト可相心得此旨相達候事

但酒造營業人及酒類受賣營業人ニ於テ酒精或ハ再留酒精ヲ蒸留シ又ハ販賣スル者ハ酒類稅則中燒酎ノ明文ニ據リ稅課スヘシ

○廣島縣告示第五拾五號 十九年二月十八日

賣藥願書所載ノ配伍藥名ニ一定ノ漢字若クハ譯字アルモノハ片假名字ヲ用ヒ或ハ方言ヲ記載スベカラズ
右告示候事

○廣島縣内第貳拾六號 十四年二月十日 郡區長戶長

賣藥廢業届之儀明治十一年一月縣内第十號達之趣モ候處詮議之次第有之取消シ本人届書月日ヲ以廢業ト相定候條該營業者へ告示可致此旨相達候事

○廣島縣諭達 十二年三月三日

賣藥規則ノ儀ハ豫テ相達置候通營業者ニ於テ遵守致シ候儀ハ不俟言儀ニ候得共製劑ノ粗漏分量ノ失度ニヨリ却テ不測ノ大害ヲ招キ候儀可有之ニ付尙一層注意致スベク且又從前用ヒ來候藥方中劇藥配合ノ分モ有之候處其劇藥ヲ取除キ檢査出願許可ヲ得タル者モ不遵候得共万一藥力ノ速効ヲ促シ或ハ舊方ニ固泥シ再ヒ劇藥ヲ隱ニ配合候テハ規則ニ悖戻スルノミナラズ第一貴重ノ人命ヲ害スルニ至リ不相濟儀ニ付取締ノ爲メ不時製劑檢査候儀モ可有之候條前條ノ旨趣爲ト相心得不都合無之様可致此旨諭達候事

○廣島縣申第百拾四號 十三年六月十九日

施藥ノ儀ハ賣藥同様検査願出候様明治十年十月縣甲第百三拾號ヲ以布達候處詮議ノ次第有之自今内外用藥ヲ論セス一切停止候尤防臭藥消毒藥其他人身ノ皮膚ニ直接セサル藥劑ノ類ハ施與不苦候條藥品分量効能用法等ヲ詳記シ現品相添ヘ其都度可願出旨布達候事

但内外用藥ト雖モ賣藥ノ免許ヲ得タルモノヲ相對施與スルハ此限ニ非ス

○廣島縣告示甲第貳拾壹号 二十五年三月二十四日

本年二月大藏省令第四號ニ據リ登記印紙ヲ以テ納付スヘキ賣藥營業鑑札料ハ來ル四月一日ヨリ賣藥願許可ノ指令書下付ヲ得タル後別紙書式ノ納付書ニ貼付消印シ當廳ヘ差出スヘシ右到達ノ上賣藥營業鑑札下渡ス但シ水火盜難ニ因リ賣藥免許鑑札ヲ毀失シ再下付ヲ請フ片ハ其願書ノ正本ニ貼付消印シ差出スヘシ

(別紙) (用紙半紙全紙)



納付書

指令番号 許可年月日

一方名何々(丹散湯丸圓)

右賣藥營業鑑札料納付候也

年月日

住所番邸

知事宛

氏名印

○廣島縣丙第九十一號 十一年五月十八日 郡區長

其區賣藥請賣者ニテ其賣藥ヲ調製候義ハ無之筈ニハ候得共或ハ營業者ノ藥方分量ヲ傳受シ調製販賣候テハ本年四月第二十六號布告賣藥改正規則第二十三條ノ罰則ニ相當ルヘキモノニ付萬一右等ノ者有之候ハ、速ニ調製相止メ更ニ賣藥營業願出候様可及示達此旨相達候事

○大藏省訓令第一號 廿一年一月七日 北海道廳府縣

博覽會共進會開設ニ際シ煙草菓子賣藥ヲ出品シ且ツ其會場内外ニ於テ特ニ販賣スルトキ其取扱方ハ左ノ通心得ヘシ

- 一 但明治十一年六月內務大藏兩卿連署乙第四十七號達ハ自今廢止ス
- 一 從來免許ノ營業人ニシテ出品スルモノハ別段免許鑑札ヲ受ルニ及ハス
- 一 印紙ノ貼用ヲ要スル物品ハ總テ其規則ニ遵テ印紙ヲ貼用スヘシ
- 一 出品主ニシテ其出品ノ販賣店ヲ開設スルモノモ亦前二項ニ準ス但其店頭ニ免許何營業人住處氏名ヲ記載セル標札ヲ掲出スヘシ
- 一 前項販賣店開設ヲ許可スルニ當リ場内狹隘ノ爲メ止ムヲ得サルトキハ其場近傍ニ一定ノ區域ヲ限リテ之ヲ許可スルコトヲ得

○布告第五拾壹號 十五年十月廿七日

賣藥印紙稅則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シテ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合

- 一定價壹錢迄 印稅壹厘
- 一全 貳錢迄 全 貳厘
- 一全 三錢迄 全 三厘
- 一全 五錢迄 全 五厘
- 一全 拾錢迄 全 壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

- 壹厘
- 貳厘
- 三厘
- 五厘
- 壹錢
- 淡黑色
- 青色
- 黃色
- 茶褐色
- 赭色

貳錢

綠色

三錢

濃青色

四錢

橙黃色

五錢

紫色

拾錢

深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處

シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以

上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以

上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

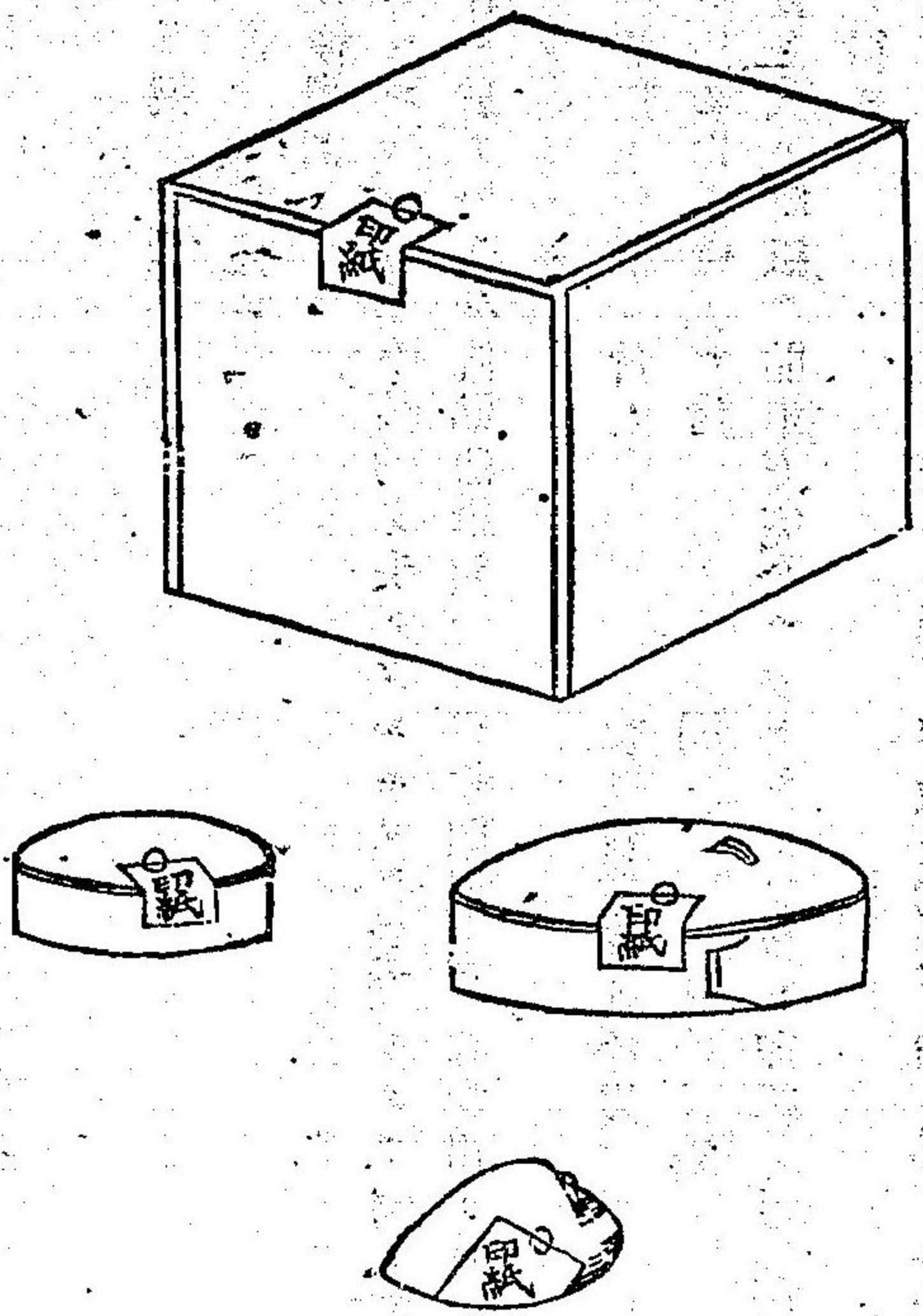
第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍

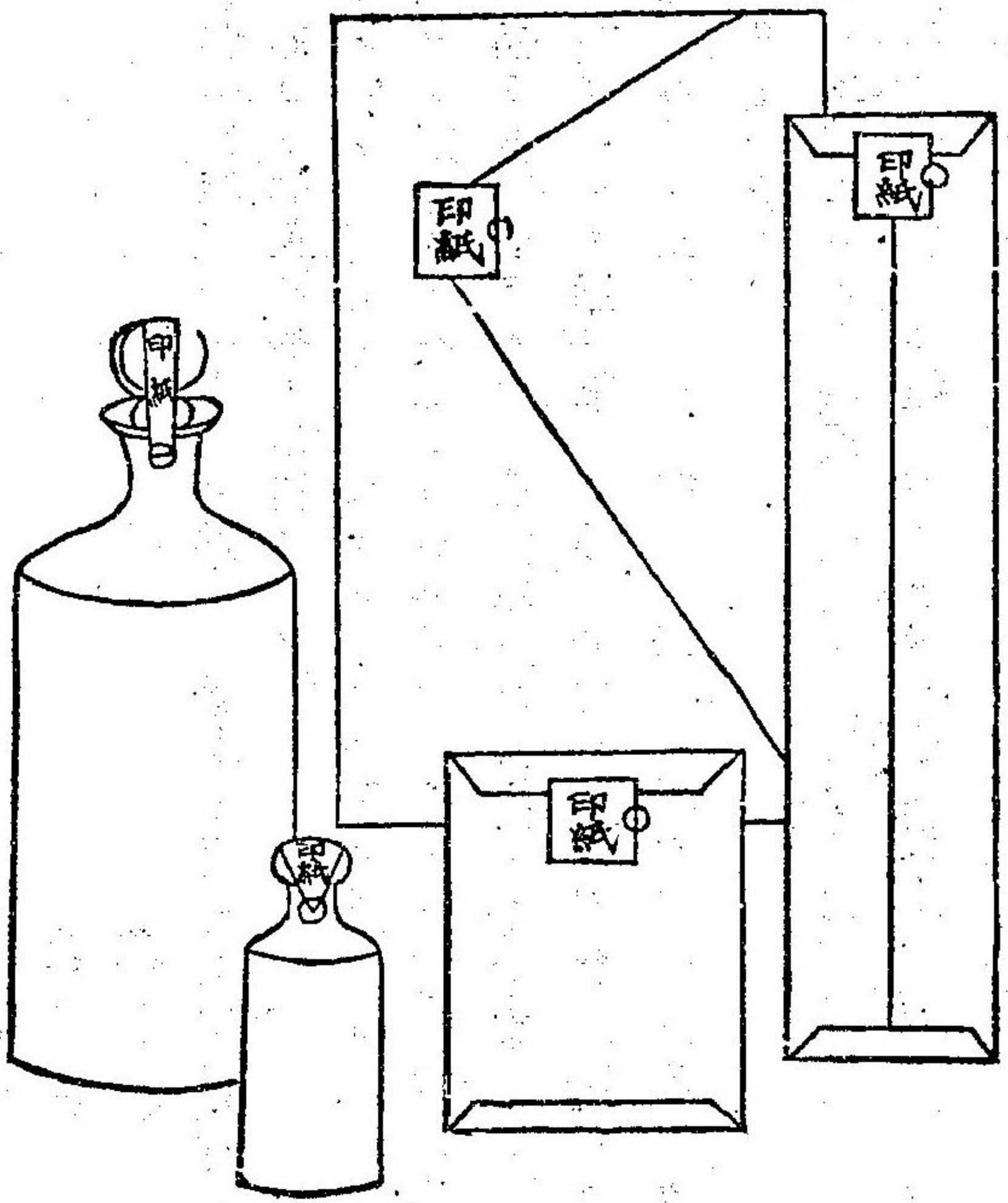
ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍

ホ其品ヲ沒收ス

右奉 勅旨布告候事



印紙貼
用錐形



○布達第貳拾八號 十五年十二月二十一日
今般第五拾壹號ヲ以賣藥印紙稅則布告候ニ付テハ印紙別紙見本ノ通相定ム(別紙畧ス)
右布達候事

○大藏省令第二十三號 十九年七月七日
賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄セシカ爲メ既貼ノ印紙不
用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合
ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ

一 既貼印紙 拾圓以上壹圓ニ付

交換新印紙八拾錢

一 全 貳拾圓以上壹圓ニ付

同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモ
ノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ個數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル
書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ檢査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟
ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

○大藏省令第三十一號 十九年十月二十一日
賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ讓受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金
壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○廣島縣令甲第拾八號 廿年三月十八日
明治十九年第二十三號大藏省令ニ遵ヒ賣藥印紙ノ交換ヲ求メント欲スルモノハ所轄郡
區役所へ願出スヘシ

○廣島縣令甲第拾九號 二十年三月十八日
賣藥營業者其行商者ヲシテ他府縣下ニ配置セシメタル賣藥ノ印紙交換ヲ求メントスル
モノハ便宜ノ爲メ其配置先ノ管廳へ願出テ該藥毀却ノ證明ヲ受ケタル上其證明書ヲ以
テ所轄郡區役所へ願出ツルヲ得ル

○廣島縣訓令甲第六十五號 廿年三月十九日 郡區役所
明治十九年第貳拾三號大藏省令ニ遵ヒ賣藥印紙ノ交換及ヒ毀却證明ヲ出願ツルモノア
ルキハ左ノ手續ニ據リ之ヲ取扱ヘシ

但シ明治十九年八月訓令第七號訓令ハ廢止ス
右訓令ス

第壹條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出タル片ハ明治十九年第九號大藏省令ニ遵ヒ印紙交
換ノ手續ヲ成スベシ

第貳條 他府縣ニ於テ毀却証明ヲ請ケタルモノニシテ開封及印紙ノ交換ヲ願出ルモノ
アル片ハ其封緘ヲ解キ收稅長ヨリ回付シタル証明書及封印ニ照シ相違ナキモノハ相
當印紙ヲ下付スベシ

第三條 他府縣下營業者ニシテ業品毀却ノ証明ヲ請ハントスル片ハ賣藥ノ種目個數及
ビ印紙ノ種類價額ヲ仕譯シタル願書三通ヲ差出サセ之ヲ現品ニ照シ其既貼印紙ヲ消
印又ハ切斷シタル后願書ニ捺了ノ旨ヲ証明シ其一通ヲ願主ニ下付スベシ

但シ此證明ヲ與フルモノハ其一口ノ印紙價額金十圓以上ニ限ルベシ
第四條 前條ニ據リ証明ヲ與ヘタル片ハ其藥品ハ適宜堅牢ナル荷造ヲナサシメ嚴密封
印シテ願主ニ下付シ開封ハ自己ノ所轄廳ニ請フベキ旨申達スベシ

但シ營業場ニ遞送ヲ要セズ全ク廢棄ニ属スルモノハ再製シ能ハサル様目前ニ於テ
適宜棄却セムベシ

第五條 第三條第四條ノ手續ヲ了シタル片ハ該証明ヲ與ヘタル願書壹通ニ封印ニ用ヒ
タル印鑒ヲ添ヘ直チニ收稅長ニ送付シ他ノ堂通ハ保存シ置クベシ

第六條 此手續ニ據リ印紙交換下付シタル片ハ印紙受拂臺帳ニ交換ノ事由ヲ記載シ置
クベシ

○廣島縣訓令甲第貳拾四號

十九年九月二十一日
郡區役所戶長役場

賣藥行商人ニ於テ預ケ藥置キ藥杯ト唱エ無印紙ノ賣藥ヲ販賣シ或ハ一回使用シタル印
紙ヲ破損セサル様包紙ノ一邊ヲ開放シ數回入替ヲ自在ニスル等種々ノ奸計ヲ施シ連稅
ヲ圖ルモノ有之趣勿論稅則ノ罪人ナレハ周密取糾相當處分スヘキ筈ニ候得共奸曲者ヲ
シテ其目的ヲ達セシムルモ畢竟需用者カ印紙貼用ノ物ニ比シ幾分ノ廉價ナニ迷ヒ之
ヲ購求スルモノアルニ因ル故ニ右等ノ賣藥ヲ購求スルモノハ或ハ官廳ニ呼出尋問スル
等ノ場合モ有之自然需用者ノ迷惑トモ可相成候條眼前ノ利慾ニ迷ヒ奸商等カ甘言ニ惑
ハサレ右様ノ賣藥ヲ購求又ハ預リ置ク等心得違無之様厚ク注意セシメ且ツ目今右等ノ
賣藥所持スル者ハ購求又ハ預リノ年月日方名貼數及製造人住所姓名等取調届出シムヘ
シ

右訓令ス

○廣島縣甲第貳號 十八年一月七日

明治十六年九月甲第百七號本縣布達ヲ廢シ賣藥區域外製劑販賣規則別紙ノ通相定ム
但從前許可ノモノト雖此規則照準更ニ願出ツヘシ

右布達候事

賣藥區域外製劑販賣規則

第一條 賣藥區域外製劑トハ蚤虱鼠蠅等ノ動物ヲ殺除シ或ハ防腐防臭消毒藥ノ類人畜
治病ノ目的ニ出テサルモノヲ云フ

第二條 前條ノ藥劑ヲ調製販賣セントスル者ハ方名藥味分量製法用法及功能ヲ詳記シ

十八年甲第百十号ヲ以
テ或ハノ下改正

タル願書ニ製劑ヲ添願出免許鑑札ヲ受クヘシ
 第三條 請賣ヲ爲サントスル者ハ營業者所持ノ免許鑑札寫ヲ添ヘ營業者連署願出請賣鑑札ヲ受クヘシ
 第四條 營業者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメントスル片ハ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ際ハ必ス之ヲ携帶スヘシ
 第五條 諸鑑札共其鑑札記載ノ年月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙營業セントスルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ
 第六條 藥劑ノ包紙容器等ニハ必ス方名功能用法及營業者ノ住所姓名ヲ詳記シテ販賣スヘシ
 第七條 藥味分量製法用法及功能ヲ改正セントスル片ハ其旨願出方名ヲ改正セントスル片ハ鑑札ノ書換ヲ願出ツヘシ
 但藥味分量製法ヲ改正セントスル片ハ其製劑ヲ添フヘシ
 第八條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サントスル片ハ讓受人連署鑑札ノ書換ヲ願出ツヘシ
 第九條 諸鑑札ハ貸借スルヲ許サス廢業死亡若シハ他府縣へ轉住セントスル片ハ其旨願出鑑札ヲ返納スヘシ
 第十條 免許ノ製劑ト雖モ有害品ナルコトヲ發見スルカ又ハ賣業ニ紛ハンキモノト認ムルモノハ直ニ鑑札ヲ引揚ケ發賣ヲ禁止スヘシ
 第十一條 營業者死亡廢業又ハ禁止セラレタル片ハ其請賣及行商者共販賣ヲ許サス所持ノ鑑札ハ速ニ返納スヘシ

廿二年七月縣令甲第百八号ヲ以テ改正

十九年三月甲第五十号ヲ以テ第十五條刪除
 廿一年四月縣令甲第五十七号ニテ更ニ第十五條追加

第十二條 營業者ノ住所姓名又ハ方名ヲ變更シ或ハ免許鑑札ヲ他人へ讓渡シタル片ハ速ニ請賣及行商者ニ通知シ請賣者ハ營業者連署鑑札ノ書換ヲ願出ツヘシ
 第十三條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シ或ハ改姓名若クハ轉住シタル片ハ其事由ヲ具シ書換ヲ願出ツヘシ
 第十四條 他府縣ノ營業者ニシテ本縣ニ於テ其製劑ヲ販賣セントスルモノ又ハ他府縣營業者ノ製劑ヲ請賣若クハ行商ヲ爲サントスル者ハ其府縣ニ於テ許可セラレタル願書ノ寫ヲ添ヘ鑑札ヲ願受クヘシ
 第十五條 本則ニ違背シタル者ハ違警罪ノ刑ヲ以テ罰セラルヘシ

○廣島縣内第三號 十八年一月七日 郡區役所警察長役場衛生委員

賣藥區域外製劑免許請賣及行商鑑札左之通相定候條此旨相違候事
 免許鑑札雛形 堅五寸

番號	何府何郡何村何番屋敷
賣藥區域外製劑一方名	氏名
右 免許候事	
年月日	廣島縣
印	
滿期ノ年月日	
主任ノ印	

第六項 賣藥并賣藥區域外

請賣鑑札維形 寸法全

番號 住所全 氏 名

賣藥區域外製劑

一方名 一方名

一方名 一方名

右請賣免許候事

年月日 廣島縣 印

行商鑑札維形 木製 堅三寸二分

面 表

番號

製劑者又ハ請賣者住所 全(氏名賣子) 氏 名

賣藥區域外製劑

一方名 一方名

一方名 一方名

右行商免許候事

年月日

滿期ノ年月日○

主任ノ印

住所全 氏 名

製劑者

滿期年月日○

主任ノ印

廣島縣

第七項 病院

○廣島縣甲第七號 十八年一月七日

公私立病院設立規則別紙ノ通相定ム

右布達候事

公私立病院設立規則

- 第一條 公立病院ヲ設立セントスルハ區町村會ノ決議ヲ經テ其管理スル所ノ郡區長又ハ戶長戶長ハ郡區長ヲ經由ヨリ伺出ツヘシ
- 私立病院ヲ設立セントスルハ本人結社ナルハ社員總代ヨリ郡區役所ヲ經テ願出ツヘシ
- 但本條伺願ハ左ノ書式ニ準據シ其關係書類ヲ添付スヘシ
- 第二條 左ニ記載スル備ナキモノハ之ヲ病院トシテ設立スルヲ得ス
- 一 院長ノ外二名以上ノ醫員ナキモノ
 - 一 醫員ニ相當シタル調劑員ナキモノ
- 第三條 病院ニハ公私立何々病院ト記シタル標札ヲ其門戶ニ揚クヘシ
- 第四條 職員ノ黜陟増減ハ其時々届出ツヘシ
- 第五條 病院ヲ新築又ハ其位置構造院則等ヲ變更セントスルハ其旨伺出ツヘシ
- 但新築又ハ位置構造ヲ變更スル場合ニ於テハ圖面ヲ添フヘシ
- 第六條 病院ヲ廢止シ名稱ヲ變更シタルハ其旨届出ツヘシ
- 第七條 分支院ヲ設立スルモ亦此規則ニ準據スヘシ
- (書式) 用紙美濃紙三通

公立病院設立ノ義ニ付何

一 病院位置
何國何郡何町何番地(何番屋敷)

一 名稱
公立何々病院

一 設立區町村私立病院ハ本項ヲ除ク
區町村名

一 敷地建物

一 敷地何坪建物何坪別紙圖面ノ通

一 院則
患者診察ノ手續及入院料藥價診察料差等ノ類

一 院長以下職員調劑員ノ履歷
別紙ノ通

一 院長以下職員給料
每一人一ヶ月金何程
但給料不定ノモノハ其旨記載スヘシ

一 病院費用

收入豫算

金何程 賦課金(社員支出金)

公立病院設立ノ義ニ付何

一 病院位置
何國何郡何町何番地(何番屋敷)

一 名稱
公立何々病院

一 設立區町村私立病院ハ本項ヲ除ク
區町村名

一 敷地建物

一 敷地何坪建物何坪別紙圖面ノ通

一 院則
患者診察ノ手續及入院料藥價診察料差等ノ類

一 院長以下職員調劑員ノ履歷
別紙ノ通

一 院長以下職員給料
每一人一ヶ月金何程
但給料不定ノモノハ其旨記載スヘシ

一 病院費用

收入豫算

金何程 雜收入

金何程 寄附金

合計金何程

但一ヶ月金何程

支出豫算

金何程 書籍器械等購求及修繕費
但書籍器械品目別紙ノ通

金何程 營繕費並諸雜費

金何程 俸給並諸雇給料

合計金何程

但一ヶ月金何程

右之通設立仕度此段相伺候也

年月日

何區郡長 氏 名 印

又 何區郡何町戶長 氏 名 印

又 何區郡何町何番屋敷族籍醫師或ハ何職業 氏 名 印

總社代人 氏 名 印

衛生委員

氏名印

戶長

氏名印

縣令氏名殿

○廣島縣告示甲第九十六號 廿一年五月廿二日
縣立廣島病院職員派出規則別紙之通相定ム

(別紙)

縣立廣島病院職員派出規則

- 第一條 廣島病院職員ハ醫學上衛生上ノ監査講談等ノ爲メ郡區町村ノ官衙又ハ人民ノ請求ニ依リテ派出セシム
- 但シ派出ノ際各自ノ請求ニ應ジ患者ノ診察ヲ爲スコトアルヘシ
- 第二條 派出ヲ請ハント欲スルモノハ指定日十日前郡區役所ヲ經テ其旨願出ベシ但シ至急ヲ要スル場合ハ此限ニアラズ
- 第三條 院務多忙ニシテ差支アルキハ派出ヲ許可セザルコトアルベシ
- 第四條 派出ニ要スル日當ハ請求者ヨリ支辨スベシ
- 第五條 醫會衛生會等公共ノ爲ニスル患者診察料ハ該會ノ適宜ニ任セ病院へ徴収セズ
- 第六條 派出ノ際一己人ノ爲ニスル患者診察料ハ病院へ納メシム

第七條 派出ノ職員ハ旅費ヲ給セズ一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スベシ但シ其給與方ハ左項ニ依ル

正副院長司療醫藥局長

日當金 貳圓

當直醫書記調劑手

日當金 壹圓廿錢

三里未滿ノ旅行ハ日當ヲ給セズ但シ宿泊ヲ要スルキハ其泊數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スベシ

第八條 患者診察料ハ本縣人ハ貳拾五錢他府縣人ハ五拾錢トス

第八項 解剖

○內務省達 九年七月廿九日
三府

病死屍解剖ノ儀ハ醫術進步ノ爲メ緊要ノ事柄ニ付双方熟談ノ上ハ區戸長或ハ醫務取締
〜屆置患部ノ剖觀不若候條此旨相達候事

○布告第貳拾貳號 十年二月廿一日

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難
*旨醫師申立ル時ハ檢査方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルヲ得

○內務省達中第貳拾五號 十八年七月廿一日
監獄則ニ掲クル所ノ刑死者及死亡者ニシテ親屬故舊其遺骸ノ下付ヲ請フ者ナキトキハ

官公立醫學校若クハ病院ニ於テ該遺骸ヲ解剖實驗ノ用ニ供スルヲ得此旨相達候事
但屍體剖觀ノ後ハ縫理シテ原體ニ復シ不都合無之様取計ハシムヘシ

○文部內務兩省告示第十號 廿一年九月二十四日

從來死體解剖ノ儀帝國大學醫科大學へ願出ル者アルトキハ該學ニ於テ聞届來候處自今
文部省直轄高等中學校醫學部ニ於テモ同様可聞届ニ付右望ノ者ハ該醫學部へ願出ヘシ

○廣島縣甲第貳百四拾九號 十八年十二月廿八日

死体解剖規則別之通相定ム

但公立醫學校及病院ハ本則ヲ適用セズ

右布達候事

(別紙)

死体解剖規則

第一條 死体解剖^{局部}ハ醫術開業免狀若クハ官府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ有スルモノ
ニアラザレバ之ヲ行フヲ許サズ

第二條 解剖セント欲スルモノハ其解剖スベキ部分及施行ノ場所并ニ日時ヲ詳記シ死
者遺族ノ連署^{遺族ナキモノハ生前ノ素願書}ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條 解剖ハ死后廿四時間ヲ經過スルニアラザレバ之ヲ行フヲ得ズ
但死者遺族ナレバ其生前ノ素願書ヲ本文願書ニ添付スヘシ

第四條 解剖ハ係官吏醫師醫學生徒及死者關係ノ者ノ外參觀セシムルヲ許サズ

第五條 解剖終ルトキハ臟腑其他ノ器官等ハ渾ベテ復納シ切開部ノ皮膚ハ之ヲ縫理シ
死体ノ舊形ヲ變セシムベカラズ

第六條 解剖終ルノ后ハ死者生前ノ容体及解剖實況等ヲ詳記シタル解剖說ヲ添へ所轄
警察署又ハ分署ニ届出ベシ

第七條 警察署又ハ分署ハ第六條ノ届書ヲ受タルトキハ解剖說ヲ添へ其旨申報スベ
第八條 警察官吏臨監シ現場ノ取締ヲナスコアルベシ

二十五年一月縣令甲第
九号ヲ以テ改正

第九條 本則第三條第四條及ヒ第五條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘辱ニ
處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第九項 鑛泉

○内務省達内第四十四號

九年八月二十五日
長野縣外三十一縣

司藥場設置以來鑛泉分析試驗ノ儀追々申出候向有之候處其採酌法不得宜ヨリ往々其成
分變性シ就中游離氣類有之モノニ至テハ多少蒸散ヲ不免其カ爲精密ナル試驗難及候條
同場事務ノ緩劇ヲ圖リ試驗主任ノ者ヲ派遣シ實地ニ就テ試驗セシメ候上運搬ヲ要スル
分ハ採酌法等詳細示談可及候條其節マテ差出方見台可申此旨相達候事

○廣島縣甲第七拾七號 十八年四月二十二日

鑛泉ヲ採酌シ販賣セント欲スル者ハ願書ニ主治功能用法用量ヲ明記シ泉水及其分析表
相添願出ベシ

但願書ニ添付スヘキ泉水採酌方ハ明治廿一年七月告示甲第百貳十八號本縣告示ニ照準
スヘシ

右布達候事

第四章 雜件

第一項 傳染病救療費

○達第八號

十六年二月十四日
警視廳府縣(沖繩函館札幌根室縣ヲ除ク)

明治十四年^四第三十號達左ノ通改正候條此旨相達候事

傳染病ニ罹リタル者身元赤貧ニシテ資力ナキトキハ本籍寄留旅行ヲ問ハス其費用ハ總

テ發病地ノ地方稅中衛生費ヲ以テ支辨スヘシ

但流行ノ勢盛ナルトキハ時機ニ據リ官費支給スルコトアルヘシ

○內務省達乙第三拾六號

十六年七月十九日
警視廳府縣(沖繩函館根室札幌ノ四縣ヲ除ク)

本年^二第八號公達傳染病ニ罹リタル赤貧者費用支辨之義ハ十五年度ヨリ施行候儀ト可

心得此旨相達候事

但既ニ仕拂濟ノ者ハ此限ニアラス

○廣島縣訓令甲第六拾號

二十四年十二月二十三日
郡市役所町村役場

傳染病ニ罹リタル赤貧者取扱規則左之通相定ム

但明治廿一年^七訓令甲第百五號及同年^十訓令甲第百二十七號ハ廢止ス

右訓令ス

傳染病ニ罹リタル赤貧者取扱規則

第一條

本縣ニ於テ傳染病(傳染病豫防規則ニ
定ムル六病ヲ云フ)ニ罹リタルモノ身元赤貧ニシテ其費用支辨

シ能サルモノハ本籍寄留旅行ヲ問ハス地方税ヲ以テ之ヲ支給ス

第二條 前條赤貧者ト稱スルハ左ノ各項中一項若クハ數項ニ適スルモノヲ云フ

第一項 恤救規則又ハ地方稅救助規則ニヨリ救助ヲ受クルモノ并ニ其家族

第二項 地方稅ノ免除ヲ受クル者(貧困ノ事故ニ係ルモノニ限ル)并ニ其家族

第三項 市町村稅徵收延期中ノモノ并ニ其家族

第四項 獨身者ニシテ死亡シ他ニ死後ノ取片付ヲナスヘキ親戚縁故ノモノナク且遺

留ノ財産ナキモノ若クハ遺留財産ヲ以テ支辨シ尙不足ヲ告クルモノ

第五項 本籍不明ノモノ又ハ本縣ニ在籍セサル旅人ニシテ本人及其本籍身元赤貧費

用支辨シ能ハサルモノ

第三條 第一條ニ該當スル者ハ治癒死亡ヲ問ハス一人ニ付左ノ制限以内ノ金額ヲ給與

一 診察料

但虎列拉初診金貳拾五錢以内再診以後一回金拾錢以内其他ハ初診金貳拾錢以

内再診以後一回金五錢以内

片道壹里以上往診スルモノハ別ニ壹里ニ付五錢以内ノ車馬賃ヲ給與ス

二 藥價

但治療藥價ハ主治醫又ハ藥劑師ノ定ムル所ニヨル消毒藥ハ藥商ヨリ買入レタ

ル實價ニ依ル

三 患者食費 一日金九錢以内

但第二條第一項ニ適スル受救助者ニハ支給セス

四 看病人給料 虎列拉ハ一日金四拾錢以内 其他ハ一日金貳拾錢以内

但家族中看護人ニ充ツヘキモノアルトキ若クハ親戚ノモノニ於テ看護シタル

トキハ之ヲ給與セス且看病人ハ一患者ニ付一名ヲ超ユルコトヲ得ス

五 雜費 一日金參錢以内

但患者ニ屬スル薪炭油費等 寢具衣類等特ニ買入給與セサレハ治療ノ目的ヲ達スル能ハサル場合ニ於テ給

シタルモノニ限リ金壹圓貳拾錢以内ヲ給與ス

六 患者運搬費 虎列拉ハ金七拾錢以内 其他ハ金五拾錢以内

但現ニ患者ヲ運搬シ延病院又ハ離隔所ニ移シタル片ニ限リ給與ス

七 埋火葬費 虎列拉ハ金貳圓五拾錢以内 其他ハ金貳圓以内

但棺并ニ付屬品埋火葬用具墓標又ハ骨入火葬用燃料死屍取片付運搬并ニ埋火

葬人夫賃共

八 汚穢物埋没若クハ燒藥費 虎列拉ハ金壹圓以内 其他ハ金八拾錢以内

但運搬器具燃料運搬夫并ニ埋没若クハ燒藥人夫賃共

九 消毒用具并ニ人夫賃 一回金貳拾錢以内 但發病及轉飯又ハ患者移轉ノ際要スル消毒人夫賃并ニ消毒用器具共

十 小屋掛及諸器具料 金壹圓五拾錢以内

但行倒人ニシテ治療所ナキモノニ限リ現ニ小屋掛ケヲナシ又ハ建物ヲ借受ケ

及日用所要ノ器具ヲ給シタルキニ給與ス
十一 死体番人賃 一人ニ付一日
金貳拾五圓以内

但行倒人ノ死体ニ限リ給與ス其番人ハ二人以内トス

第四條 第一條ニ該當スルモノアルトキハ市町村長ハ直ニ其事由ヲ詳記シ且左ノ書類ヲ添屬シ市町村内本籍ノ者ハ轉飯後五日以内其他ハ三十日以内ニ所轄郡役所へ(市ハ當廳へ)着スル様費用給與ノ義具申スヘシ郡長ニ於テハ速カニ事實ヲ調査シ該具申書受理ノ日ヨリ十五日以内ニ當廳へ着スル様進達スヘシ

一 費用精算明細仕譯書
但甲乙兩年度ニ涉ルモノハ三月卅一日ヲ以テ打切り四月一日己後ハ別ニ具申スヘシ

二 戶籍寫

三 恤救規則若クハ救助規則ニヨリ救助ヲ受クルモノハ其之ヲ受ケタル年月日ヲ記シタル書面

四 市町村稅徵收延期ノモノハ其納稅延期ヲ許可シタル意見書若クハ議決書寫シ

五 第三條第五項ニヨリ寢具等ヲ給シタルモノハ取扱吏員及主治醫ノ事實証明書

六 單身寄留又ハ管内ニ本籍ヲ有セサル旅人ニシテ貧困ノ爲メ費用支辨シ能ハサル者ニ就テハ本籍市町村長ノ赤貧証明書

第二項 衛生會

○廣島縣令甲第九号 二十一年一月二十一日

私立衛生會ヲ創設セントスルトキハ其會則ノ認可ヲ受クヘシ

衛生談話會ノ如キ會員ヲ募ラズ會則ヲ立テザルモノハ開會ノ場所及日時ヲ開會二日前所轄郡區役所ニ届出ツヘシ

第三項 家屋建築

○廣島縣令乙第九号 二十年五月七日 安藝郡

安藝郡吳港家屋建築制限法別紙ノ通相定ム

吳港家屋建築制限法

- 第一條 吳部内ヲ分ツテ二區トシ其各區内ニ設クル家屋下水等ハ總テ本則ニ依リ築造スヘシ
- 第二條 各區ノ經界及道路下水等ハ別紙圖面ノ通り圖面ニ示サ、ル道路ノ幅員ハ十二尺以上道路下水ハ其建築ヲ必要トスル場合ニ臨ミ地圖及仕様書ヲ添ヘ本廳ノ許可ヲ請フヘシ但民有地第一種中へ私設ノ道路ト雖モ六尺以上トスヘシ
- 第三條 家屋ハ滿湖面ヨリ四尺以上ノ高サヲ有スル地盤ニアラザラハ建築スルヲ得ス地盤ノ高低ヲ測ルハ本廳ニ於テ定ムル測點ヲ標準トス
- 第四條 家屋ハ可成煉瓦石造又ハ土藏造塗家等ニシテ家根ハ必ス不燃質物ヲ用ユヘシ家屋内ノ床敷ハ地上壹尺八寸以上ト爲スヘシ第二區内ハ實地ノ景狀ニヨリ並家ノ建築ヲ許スヲアルヘシ
- 第五條 厠窩ハ盜衣ヲ有スル陶器ヲ用ヒ其周圍ノ表面ハ厚五寸以上ノ漆喰ヲ以テ漏斗狀ニ造成シ斜ニ厠窩ニ達スルノ構造ヲ爲スヘシ第二區内ハ實地ノ景狀ニヨリ本條ノ制限ヲ取捨スルヲ得
- 第六條 厠圍及汚水流シ口チハ道路ニ面シ設ク可ラス
- 第七條 下水ハ煉瓦石造又ハ厚六寸以上ノ漆喰製ニシテ底ハ楕圓又三角形ニ作り淤水

ノ淹滞セサル様注意シ其表面ハ蓋ヲナスヘシ第二區内ハ本條ノ制限ヲ取捨スルヲ得

第八條 第一區ハ定地内ノ汚水溜ヲ設ク可ラス廢水ハ煉瓦石造又ハ漆喰製ヲ以テ水路ヲ設ケ下水ニ排除スヘシ

第九條 芥溜ハ直ニ運搬シ得ヘキ受器ヲ用ユヘシ第二區ハ灰小屋等一定ノ芥捨場ヲ設クルヲ得

第十條 煖爐其他ノ煙筒及煙管ノ煉瓦石造ハ厚七寸五分以上トスヘシ鐵管造ハ木材等可燃質物ヨリ壹尺以上ノ距離ヲ置キ其貫通スヘキケ所ハ周圍七寸五分以上不燃質物ヲ以テ之ヲ隔ツヘシ

第十一條 鍛冶場製藥場其他ノ工場製造所ハ圖面及仕様書ヲ添本廳ノ許可ヲ請フヘシ第十二條 總テ家屋ハ堅牢ニシテ火災ヲ防キ兼テ衛生上ニ注意シ空氣ノ流通ヲ能クスヘシ

第十三條 本則ニ違背シテ工事ヲ起シ又ハ適法ノ工事ト雖敗類シテ危險ノ虞アルルハ臨時改造修理若シクハ撤却ヲ命スルヲアルヘシ (圖面畧ス)

○廣島縣令乙第二十三號 二十一年十月六日 安藝郡
安藝郡吳部内ニ於テ家屋建築制限法ニ矛盾セシ構造ハ來ル明治二十六年十二月ヲ期シ該建築制限法ノ通り漸次改築スヘシ

○廣島縣令乙第二十四號 二十一年十月六日 安藝郡
安藝郡吳部内ニ於テ家屋建築制限法ニ矛盾セシ構造改築年期ノ備本年十月廣島縣令乙第二十三號ヲ以テ相定候處右年期内ハ一時仮家ノ建築ヲ許スコトアルヘシ

第四項 違警罪

○廣島縣令甲第五號 二十五年一月十六日
本縣違警罪別冊之通改正ス
別冊 (摘要)

本縣違警罪

- 第一條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
 - 一 食用ノ爲メ生河豚ヲ販賣シタル者
 - 二 有病又ハ病死ノ禽獸ナルヲ知テ食料ノ爲メ販賣シタル者
 - 三 人ニ汚穢物及ビ瓦礫竹木ノ類ヲ抛擲シタル者
- 第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス
 - 一 墓地及ビ埋葬取締規則ニ違背シタル者
 - 二 劇毒物又ハ麻醉スベキ物質ヲ用ヒ捕魚シタル者
 - 三 飲用水路ニ妨害ヲ爲シタル者
- 第四條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス
 - 一 鳥獸虫類ノ死屍及ビ瓦石塵芥ノ類ヲ河川溝渠ニ投棄シタルモノ
- 第五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス